

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2023年3月23日
【事業年度】	第30期（自 2022年1月1日 至 2022年12月31日）
【会社名】	株式会社ベルパーク
【英訳名】	Bell-Park Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 西川 猛
【本店の所在の場所】	東京都千代田区平河町一丁目4番12号
【電話番号】	03(3288)5211
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 石川 洋
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区平河町一丁目4番12号
【電話番号】	03(3288)5211
【事務連絡者氏名】	取締役管理本部長 石川 洋
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回 次	第26期	第27期	第28期	第29期	第30期
決 算 年 月	2018年12月	2019年12月	2020年12月	2021年12月	2022年12月
売上高 (千円)	98,088,102	103,303,605	98,843,080	107,281,892	102,778,658
経常利益 (千円)	3,256,964	4,379,245	5,348,060	4,646,235	3,588,409
親会社株主に帰属する 当期純利益 (千円)	2,115,466	3,040,672	3,620,257	3,277,414	2,521,894
包括利益 (千円)	2,116,452	3,035,008	3,683,084	3,244,904	2,515,656
純資産額 (千円)	21,335,634	23,889,250	26,661,602	28,771,299	30,340,809
総資産額 (千円)	39,093,397	43,572,868	46,371,852	43,366,826	43,624,423
1株当たり純資産額 (円)	1,108.85	1,241.58	1,385.68	1,495.33	1,576.90
1株当たり当期純利益 (円)	109.94	158.03	188.16	170.34	131.07
潜在株式調整後 1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	54.6	54.8	57.5	66.3	69.6
自己資本利益率 (%)	10.3	13.4	14.3	11.8	8.5
株価収益率 (倍)	11.9	9.2	12.2	15.1	14.5
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	170,119	8,584,957	2,425,680	3,673,444	73,346
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	988,138	1,630,463	818,105	1,250,089	172,091
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	436,467	481,105	910,555	6,134,686	960,381
現金及び現金同等物 の期末残高 (千円)	14,872,542	21,345,930	22,042,949	18,331,617	17,616,674
従業員数 (人)	1,489	1,666	1,855	1,883	1,829
[外、平均臨時雇用者数]	[468]	[472]	[447]	[441]	[544]

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 当社は、2022年1月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っておりますが、第26期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり純資産額」及び「1株当たり当期純利益」を算定しております。
3. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を当連結会計年度の期首から適用しており、当連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第26期	第27期	第28期	第29期	第30期
決算年月	2018年12月	2019年12月	2020年12月	2021年12月	2022年12月
売上高 (千円)	93,999,788	99,625,664	95,772,475	104,117,876	99,870,982
経常利益 (千円)	3,000,822	4,141,333	5,011,610	4,443,122	3,472,836
当期純利益 (千円)	1,939,453	2,887,832	3,402,283	3,146,741	2,464,158
資本金 (千円)	1,148,322	1,148,322	1,148,322	1,148,322	1,148,322
発行済株式総数 (株)	6,732,600	6,732,600	6,732,600	6,732,600	20,197,800
純資産額 (千円)	20,779,455	23,180,229	25,734,608	27,713,632	29,225,405
総資産額 (千円)	38,039,251	42,425,496	44,980,651	41,945,190	42,178,703
1株当たり純資産額 (円)	1,079.95	1,204.73	1,337.50	1,440.36	1,518.93
1株当たり配当額 (円)	70.00	119.00	170.00	154.00	41.00
(内1株当たり中間配当額)	(33.00)	(38.00)	(61.00)	(68.00)	(20.50)
1株当たり当期純利益 (円)	100.80	150.09	176.83	163.55	128.07
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	54.6	54.6	57.2	66.1	69.3
自己資本利益率 (%)	9.7	13.1	13.9	11.8	8.7
株価収益率 (倍)	13.0	9.7	13.0	15.7	14.9
配当性向 (%)	23.1	26.4	32.0	31.4	32.0
従業員数 (人)	1,399	1,567	1,755	1,786	1,736
[外、平均臨時雇用者数]	[426]	[431]	[410]	[401]	[508]
株主総利回り (%)	117.8	133.7	213.5	241.9	187.1
(比較指標: 配当込みTOPIX) (%)	(84.0)	(99.2)	(106.6)	(120.2)	(117.2)
最高株価 (円)	5,140	4,520	7,530	8,370 (2,610)	2,625
最低株価 (円)	3,285	3,505	3,295	6,010 (2,448)	1,830

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 当社は、2022年1月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っておりますが、第26期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「1株当たり純資産額」及び「1株当たり当期純利益」を算定しております。なお、「1株当たり配当額」については、当該株式分割前の実際の配当金の額を記載しております。また、第29期の最高株価及び最低株価については株式分割前の最高株価及び最低株価を記載し、()内に株式分割による権利落後の最高株価及び最低株価を記載しております。
3. 当社は、東京証券取引所の市場区分見直しに伴い、2022年4月4日をもって、東京証券取引所JASDAQ(スタンダード)から東京証券取引所スタンダード市場へ市場区分を移行いたしました。従いまして、株主総利回りの算定に使用した当社株価並びに最高株価及び最低株価は、市場区分移行以前は同取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであり、市場区分移行以降は同取引所スタンダード市場におけるものであります。
4. 「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を当事業年度の期首から適用しており、当事業年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を適用した後の指標等となっております。

2【沿革】

年月	事項
1993年2月	移動体通信サービスの加入申込、ネットワーク商品の取次業務を目的として東京都千代田区永田町に株式会社ベルパークを設立
1994年5月	東京都千代田区麹町に本店移転
1995年4月	株式会社東京デジタルホン（現 ソフトバンク株式会社）と代理店委託契約を締結
1995年5月	東京デジタルホン認定店舗である「デジタルホンサービス専門店」（現 ソフトバンクショップ）の運営開始
2000年5月	日本証券業協会に株式を店頭登録
2004年11月	東京都千代田区平河町に本店移転
2004年12月	日本証券業協会への店頭登録を取り消し、ジャスダック証券取引所に株式を上場
2009年6月	パナソニックテレコム株式会社の運営していたソフトバンクショップ52店舗（直営22店舗、FC30店舗）及び卸売事業を譲受け
2010年4月	ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所JASDAQ市場に上場
2010年10月	大阪証券取引所ヘラクレス市場、同取引所JASDAQ市場及び同取引所NEO市場の各市場の統合に伴い、大阪証券取引所JASDAQ（スタンダード）に株式を上場
2010年12月	株式会社ウィルコム（現 ソフトバンク株式会社）と代理店基本契約を締結
2011年2月	ウィルコム認定店舗である「ウィルコムプラザ」（現 ワイモバイルショップ）の運営開始
2013年2月	KDDI株式会社と代理店業務委託基本契約を締結
2013年6月	KDDI認定店舗である「auショップ」の運営開始
2013年7月	大阪証券取引所と東京証券取引所の市場統合に伴い、東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）に株式を上場
2014年2月	株式会社OCモバイル（現 株式会社ベルパークネクスト）を株式取得により完全子会社化し、NTTドコモ認定店舗である「ドコモショップ」の運営開始
2022年4月	東京証券取引所の市場区分の見直しにより、東京証券取引所JASDAQ（スタンダード）市場からスタンダード市場に移行

3【事業の内容】

当社グループは、当社（株）ベルパーク）及び連結子会社（株）ベルパークネクスト）により構成されており、キャリアショップの運営を中心に情報通信機器等の販売及びサービスを提供する事業を展開しております。

2022年12月31日現在、移動体通信事業者との代理店委託契約等に基づき当社グループが運営するキャリアショップ（ソフトバンクショップ、auショップ、ドコモショップ、ワイモバイルショップ）は、東名阪を中心に直営（注）で302店舗となっております。また、当社グループと再委託契約を締結した販売代理店（二次代理店）が、キャリアショップ（フランチャイズ店）56店舗と併売店を運営しております。

（注）ソフトバンクショップ、auショップ並びにワイモバイルショップは一次代理店として、ドコモショップは二次代理店として運営しております。

当社グループは「情報通信機器販売サービス事業」の単一セグメントではありますが、キャリアショップ事業と法人ソリューション事業の2つの事業があります。

「キャリアショップ事業」

キャリアショップ事業では、情報通信サービスの新規契約等の取次、情報通信機器等商品の販売、割賦契約の斡旋、故障修理や料金プランの変更等受付、並びに通信料金の収納受付等を行っており、直営店とフランチャイズ店で営業内容に差異はございません。なお、二次代理店が運営する併売店は、情報通信サービスの新規契約等の取次、情報通信機器等商品の販売等に営業内容が限定され、キャリアショップとは差異があります。

「法人ソリューション事業」

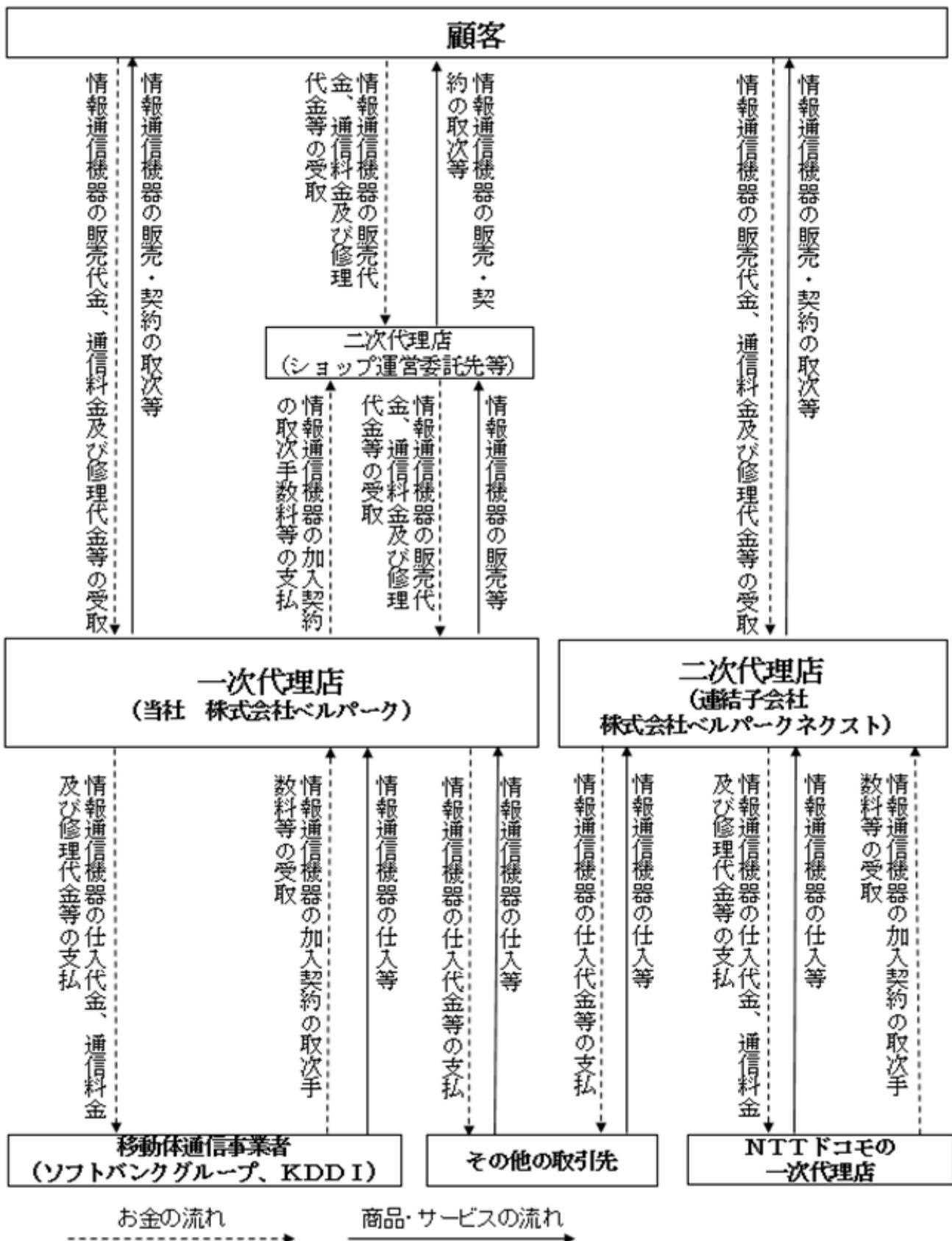
法人ソリューション事業では、法人のお客様に対して携帯電話等の通信サービスの契約取次ぎ、クラウドサービスの取次ぎ、セキュリティ関連商材の販売、故障受付等のアフターサービスの提供等を行っております。

（売上高、売上原価について）

当社グループは、顧客や二次代理店に販売した情報通信機器等商品の販売価格を商品売上高、当社グループ及び二次代理店の情報通信サービス契約取次及び故障修理や料金プラン変更等各種受付業務に対する手数料、並びに新規契約等を締結した加入者の毎月の通信料金の一定割合を一定期間にわたり受け取る手数料（継続手数料）等で主に移動体通信事業者から受け取る手数料を受取手数料とし、商品売上高と受取手数料を売上高としております。

移動体通信事業者等から仕入れた情報通信機器、各種付属品等の商品のうち当社グループが顧客又は二次代理店に販売した商品の仕入価格を商品売上原価、当社グループが二次代理店に委託した業務（情報通信サービスの新規契約等の取次、情報通信機器等商品の販売、割賦契約の斡旋、故障修理や料金プランの変更等受付、並びに通信料金の収納受付等）の対価として、当社グループが移動体通信事業者等から受け取る手数料を原資として二次代理店に支払う手数料を支払手数料とし、商品売上原価と支払手数料を売上原価としております。

事業の系統図は、次のとおりであります。



4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (千円)	主要な事業の内容	議決権の 所有割合 (%)	議決権の被 所有割合 (%) (注)2	関係内容
(連結子会社) 株式会社ベルパーク ネクスト	東京都 千代田区	100,000	情報通信機器販売 サービス事業	100.00	-	役員の兼任
(その他の関係会社) 株式会社光通信 (注)1	東京都 豊島区	54,259,410	法人事業、SHOP事業 及び保険事業	-	33.41 (33.41)	-
(その他の関係会社) 株式会社日本ビジネス開発	東京都 世田谷区	10,000	有価証券の保有及び 運用、電気通信機器 の企画及び販売事業	-	27.06	役員の兼任

(注)1. 有価証券報告書を提出しております。

2. 「議決権の被所有割合」欄の(内書)は間接所有であります。

5【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

2022年12月31日現在

従業員数(人)
1,829 (544)

(注)1. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は()内に年間の平均人員を外数で記載しております。

2. 当社グループは、情報通信機器販売サービス事業の単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

(2) 提出会社の状況

2022年12月31日現在

従業員数(人)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
1,736 (508)	32.1	6.3	4,770,618

(注)1. 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は()内に年間の平均人員を外数で記載しております。

2. 平均年間給与は、基準外賃金及び賞与を含んでおります。

3. 当社は、情報通信機器販売サービス事業の単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

(3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。

第2【事業の状況】

1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 経営方針

当社グループは、今後本格的に到来する「5G」、「IoT」、「AI」、そして「ロボット」の時代を見据え、人材を育成し、サービスを革新することにより、中長期に成長できる企業グループになることを目指し、下記の経営理念を掲げ、継続的な企業価値向上を図ってまいります。

MISSION ~ミッション~

素敵な未来を

VISION ~ビジョン~

人材を育成し、サービスを革新し、中長期に成長する企業グループを目指します。

VALUE ~バリュー~

1. 私たちは、自分たちの可能性を信じ、チャレンジし続けます。
2. 私たちは、自由闊達な社風を尊重し、活発な議論のもと、創造性を発揮し、成長し続けます。
3. 私たちは、お客様や従業員、取引先、株主および地域社会などのステークホルダーとの相互繁栄に取り組み続けます。

当社グループは、企業活動の根幹となるコンプライアンス（法規や倫理の遵守）の基本を、グループ全体で共有し徹底するために、コンプライアンス・コードを定め、倫理観の醸成に取り組んでまいります。

(2) 経営環境及び経営戦略等

わが国経済は、依然として新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を注視しつつも、社会経済活動は正常化が進み、景気が持ち直していくことが期待されます。一方で、世界的な金融引き締め等を背景とした海外景気の下振れや、物価上昇、供給面での制約等の下振れリスク及び金融資本市場の変動等、不透明な状況が続いております。

携帯電話等販売市場の経営環境は、5Gに対応した携帯電話及びサービスの普及、オンライン販売等による販売チャネルの多様化並びに通信事業者間の通信料金の値下げ競争の激化等、経営環境が大きく変化することが予想されます。キャリアショップでは、多種多様なサービスの中からお客様に最適なサービスをご提案するための高いレベルの接客スキルがより一層求められるようになることが予想されます。法人市場においては、大企業だけでなく中小企業においても、セキュリティ、テレワーク、働き方改革、DX関連商材等の需要が高まり、IT投資が拡大することが予想されます。

当社グループは、このような環境下でお客様、株主、従業員、取引先等を含むすべてのステークホルダーからの期待に応えられるよう、中長期で安定した成長を継続するため、強みでもある人材育成力、店舗運営力及び強固な財務基盤を活かして「(4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題」に記載している3つの経営課題に取り組み、中期定性目標を達成してまいります。なお、近年、モバイル市場の公正な競争環境を整備する等のために電気通信事業法の改正が行われ、この改正により通信事業者の施策内容が変更されることが多々あり、変更の内容によっては、当社の経営環境に大きな影響を及ぼす可能性があります。このため、中期経営計画を公表したとしても、計画の前提条件が変化してしまい、必ずしも株主や投資家の皆様にとって適切な判断に資するものではないと考え、単年度ごとの目標達成に向けて取り組むこととしております。なお、上記理由から収益力・資本効率等に関する目標は設けておりません。

中期定性目標

1 キャリアショップ事業で着実な成長を続ける

- ・ 今後の事業環境を考慮した適切な投資金額で店舗網の拡大を図る
- ・ 時代の変化を捉え、新たな商材の取り扱いやサービスを進化させることにより、収益を向上させる
- ・ DXの活用により店舗オペレーション、接客の効率化、働き方の多様化を推進する

2 法人ソリューション事業の成長によりバランスの良い事業ポートフォリオを構築する

- ・ 法人営業の人員を増員し、企業のデジタル化を推進できる人材の育成に努める
- ・ 新規顧客獲得のための営業を強化する
(営業拠点の拡大、紹介パートナーの増加、WEBマーケティング強化等)
- ・ M&Aもしくは提携により収益を拡大する
- ・ 新たな商材、サービスの取り扱いにより収益を向上させる

3 連結配当性向30%以上を維持する

(3) 経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

当社グループは、情報通信機器販売サービス事業の単一セグメントであり、情報通信機器販売サービス事業の着実な成長は、「売上高」、「営業利益」、「経常利益」、「親会社株主に帰属する当期純利益」の目標達成の成否により判断できることから、上記指標を目標として、その達成に向けて取り組んでおります。なお、株主還元にあたっては「連結配当性向」を重要な指標としております。

次期(2023年12月期)の連結業績予想は、売上高100,000百万円(当連結会計年度比2.7%減)、営業利益3,500百万円(同1.0%減)、経常利益3,500百万円(同2.5%減)、親会社株主に帰属する当期純利益2,200百万円(同12.8%減)を目標としております。なお、2023年12月期の1株当たりの配当金は43円で連結配当性向37.6%を計画しております。

(4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当社グループの優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題は、携帯電話等販売市場の急激な事業環境の変化に対応し、企業価値を継続的に高めることであり、以下の3つの経営課題に全力で取り組んでまいります。

情報通信機器販売サービス事業の成長

情報通信機器販売サービス事業には、キャリアショップ事業と法人ソリューション事業の2つの事業があります。キャリアショップ事業で着実な成長を続けるとともに、将来大きな成長が見込める法人ソリューション事業の拡大によりバランスの良い事業ポートフォリオを構築してまいります。各事業における取り組みは下記のとおりです。

キャリアショップ事業

- ・ 既存店の収益性を向上させるため、顧客ニーズが高い新たな商材の取り扱いや対面での接客を強みとしたサービスを提供してまいります。
- ・ 新店及び移転改装につきましては、市場動向を見極めつつ、販売予測、投資採算性等を慎重に検討し決定することで収益性の高い店舗網を拡大してまいります。
- ・ 店舗における生産性を高めるため、店舗運営の効率化を推進し、店舗オペレーションの改善やお客様の待ち時間の短縮化を進めてまいります。

法人ソリューション事業

- ・ 営業拠点の拡大、営業人員の増員、WEBマーケティングの強化等により、新たな法人顧客を増加させてまいります。
- ・ 携帯電話及びPC機器等を軸とした新たな周辺サービスの構築及び販売により、収益の拡大を目指します。

多様な人材の採用と育成、働きがいのある職場環境の整備

当社グループの成長の原動力は、何と言っても従業員です。

新卒・中途ともに優秀な人材の確保に向けて多面的な採用活動を続けるとともに、一人ひとりの能力・キャリア開発を従業員のIT基礎知識や最先端の商品・サービスに関する知識等の習得により促進してまいります。さらに、従業員がより長く安心して働くことができる労働環境を整備するため、働き方の改革、ダイバーシティの推進、有給休暇の取得促進、残業時間の低減さらには新規事業等、様々な事業や業務にチャレンジできる環境の整備等、人材の中長期の成長を見越した人事戦略を推進してまいります。

ESG(環境・社会・企業統治)等のサステナビリティへの取り組み

当社グループは、会社の持続的な成長とともに社会のサステナビリティ（持続可能性）への貢献の両立を推進するため、ESG（環境・社会・企業統治）に係る各分野への適切な対応を図るとともに、持続可能な社会の実現に向け努力してまいります。

2【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクを次のとおり重要性が高い順に記載しております。なお、当連結会計年度末現在において、これらのリスクが顕在化する可能性は認識しておりません。

文中の将来に関する記載は当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであり、また、以下の記載は必ずしもすべてのリスクを網羅したのではなく、記載されたリスク以外のリスクも存在します。

(1) 携帯電話販売市場の環境変化について

携帯電話販売市場では、インターネット販売の普及等販売方法や販路の多様化等の変化が生じる可能性があります。この変化により販売規模が著しく縮小する等当社グループの業績及び事業計画に重大な影響を及ぼす可能性があります。当社グループでは、「第2 事業の状況 1 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等 (4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題」に記載の3つの経営課題に全力で取り組むことで対応してまいります。

(2) ソフトバンクグループ(ソフトバンク株式会社及びソフトバンク株式会社の関係会社、以下(2)において同じ)への依存について

主要な事業活動の前提となる契約について

当社グループの主要な事業である情報通信機器販売サービス事業において、ソフトバンク株式会社が認定するキャリアショップ(「ソフトバンクショップ」及び「ワイモバイルショップ」)の売上高及び仕入金額が全体の約9割を占めております。このため、ソフトバンク株式会社と当社との間で締結されている「代理店委託契約」は当社グループの主要な事業活動の前提となっております。

同契約は、1年毎に自動更新されますが、契約上は、ソフトバンク株式会社及び当社の双方とも、2ヵ月前までに事前告知の上解除することが可能となっているほか、以下のような事由が生じた場合には、契約を解除できるものと定めております。

イ. 双方が第三者からの差押・仮差押・仮処分を受けた時、破産・民事再生・会社更生・解散した場合

ロ. 支払不能・手形の不渡り・契約違反に該当した場合等

ハ. ソフトバンク株式会社又は同社の顧客に対して虚偽の請求、報告を行う等、背信的行為を行った場合、ソフトバンク株式会社の信用名誉及び信頼関係を毀損する行為を行った場合

ニ. 当社の経営主体に重大な変更が生じた場合

ホ. 当社及び当社の関係者等に反社会的勢力等が含まれていること等が判明した場合

ヘ. 当社の代理店業務の実績が一定の期間を通じて不振である場合

なお、提出日現在において、解除事由について該当する事項がないため、代理店委託契約が解除となる可能性は低く、当社事業の継続に支障を来たす要因は発生していないものと認識しております。しかしながら、これらの解除事由に抵触する事由が生じた場合には、当社グループの業績及び事業計画に重大な影響を与える可能性があります。

ソフトバンクグループの提供するサービスへの依存について

当社グループの売上高及び仕入金額のうち、ソフトバンクグループの提供するサービスが占める割合は約9割となっております。このため、ソフトバンクグループの新商品の投入時期、料金プラン等の新サービスの動向、広告宣伝方針の他、法令違反等によるイメージの悪化等により重大な影響を受ける可能性があります。

取引条件について

当社グループの収益構造は、情報通信機器を販売する商品売上高、情報通信機器の販売及び移動体通信事業者が提供する各種サービスの契約取次等の対価である受取手数料から構成されております。このうち商品売上高は、事業の特徴上、仕入原価以下の価格で顧客に販売するケースが多く赤字傾向にあり、これを移動体通信事業者からの受取手数料で補填することにより利益を生む収益構造となっております。

このため、受取手数料の金額、支払対象期間、支払対象となるサービス業務の内容、通信料金に対する割合、仕入価格等のソフトバンク株式会社と当社との間における取引条件は、ソフトバンク株式会社の事業方針等により変更されますので、大幅な取引条件の変更等が生じた場合には、当社グループの業績及び事業計画に重大な影響を及ぼす可能性があります。

出店計画について

ソフトバンク株式会社の認定ショップ(「ソフトバンクショップ」及び「ワイモバイルショップ」)の出店は同社の戦略に基づいて決定されるため、当社の出店計画もソフトバンク株式会社の戦略に左右されます。ソフトバンク株式会社の戦略に大幅な変更等が生じた場合には、当社グループの業績及び事業計画に影響を及ぼす可能性があります。

当社グループは、上記 から の対応策として、電気通信事業法等の各種関連法令を遵守し、かつお客様及びソフトバンクグループからの評価を高めるために役職員への教育研修及び管理体制の強化等に努めてまいります。

(3) 大規模な自然災害、重大な感染症、地政学リスクの発生について

大規模な自然災害

ここ数年、気候変動等がもたらす自然災害の発生リスクが年々高まっております。火災、地震、風水害等の大規模な自然災害等の緊急事態が発生した場合には、当社グループの事業活動が停滞し、業績及び事業計画に影響を及ぼす可能性があります。また、取引先からの商品供給不足や仕入価格の高騰、特定商品の欠品による機会損失が発生し、売上高及び利益が減少する等、当社グループの業績、財政状態及び事業計画に影響を及ぼす可能性があります。

当社グループは、これら自然災害に対する備えとして、危機管理マニュアル及び事業継続計画（BCP）を役員・従業員に周知するとともに、商品及び店舗設備等に損害保険を付保し、自然災害の影響を低減させる等の対策を講じております。

重大な感染症

当社グループでは新型コロナウイルス等重大な感染症が長期間にわたり拡大・蔓延した場合には、出店施設の臨時休業、時短営業、外出自粛による来店客数の減少、取扱い業務の制限、取引先からの商品供給不足等が生じる恐れがあり、当社グループの業績及び事業計画に影響を及ぼす可能性があります。

当社グループでは、重大な感染症が流行又は発生した場合には、監督官庁及び関連する行政機関の指針に従うとともに、キャリアショップにおいては通信事業者と適切な連携を図り、お客様、取引先及び従業員の安全を最優先に考え、関係機関と連携しながら感染症拡大防止に努めてまいります。

地政学リスク

米中対立やロシア・ウクライナ情勢等、近年国際関係の緊張が高まっております。各国の経済安全保障政策や様々な法規制の実施、戦争や暴動、テロ事件等が発生した場合、サプライチェーンの混乱、商品価格の高騰、商品の調達が困難になる等、当社グループの業績、財政状態及び事業計画に影響を及ぼす可能性があります。

当社グループは、商品等を前倒しで確保する等、当該影響を軽減させる等の対策を講じております。

(4) 法的規制等について

当社グループは、電気通信事業法等の事業固有の法令はもとより、企業活動に関わる各種法令等（環境、公正な競争、消費者保護、個人情報保護、労務、租税に関するものを含みますが、これらに限りません。）の規制を受けております。

当社グループ及びその役職員がこれらの法令等に違反する行為を行った場合、違反の意図の有無にかかわらず、行政機関から行政処分や行政指導（登録・免許の取消や罰金を含みますが、これらに限りません。）を受けたり、損害賠償請求や代理店契約の解除、営業停止等の処分を受ける可能性があります。当社グループの業績及び事業計画に重大な影響を及ぼす可能性があります。

また、将来、当社グループの事業に不利な影響を与える法令等の導入又は改正がされた場合についても、当社グループの業績及び事業計画に重大な影響を及ぼす可能性があります。

当社グループは、企業活動の根幹となるコンプライアンス（法規や倫理の遵守）の基本として「コンプライアンス・コード」を定め、役職員に対し、これらの周知・浸透に努めております。また、企業活動に関わる各種法令等の遵守を徹底するため教育研修を継続してまいります。

(5) 事業買収等による今後の事業拡大について

当社グループは、情報通信機器販売サービス事業の拡大及び新たな収益の柱の構築のために、企業買収、事業譲受け及び新規事業への投資等を行う可能性があり、将来において当該企業買収等を行った場合に、事前調査で把握できなかった問題が生じた場合や、事業環境の変化等により当初想定した効果が得られない場合、有形固定資産又は無形固定資産の減損処理等によって当社グループの業績、財政状態及び事業計画に影響を及ぼす可能性があります。当社グループでは、これらの意思決定に際しては、詳細な調査、分析を行い、その結果を基に取締役会において十分な検討を図り意思決定を行うことでリスクを低減するように努めております。

(6) 店舗販売員の確保及び育成について

当社グループの主要な事業である情報通信機器販売サービス事業には、直接お客様と接するキャリア認定ショップの店舗販売員の確保が必要不可欠であります。しかしながら、通信事業者の提供する商品・サービスの進化に伴う店頭業務の高度化、採用環境の変化等により、退職者が増加し、予定どおりの人材の確保及び育成を行えなかった場合には、当社グループの業績及び事業計画に影響を及ぼす可能性があります。

当社グループは、新卒者の定期採用及び中途の通年採用により人材を確保するとともに、専門部署による教育研修やOJT等により人材育成に努めてまいります。また、育児等と仕事の両立を図れるよう、従業員が安心して働き続けることができる職場環境づくりを進めてまいります。

(7) 情報セキュリティについて

当社グループは、事業上の機密情報や事業活動の過程で入手した個人情報及び取引先情報等を保有しております。当社グループでは、情報セキュリティに関する基本方針を定め、管理体制を整備し、運用しております。しかしながら、巧妙化・複雑化するサイバー攻撃や役職員の意図的な不正行為により、業務システムの停止やデータの改ざん、漏えい、破壊等の事象が発生する可能性があります。このような事態が発生した場合には、信用の低下やビジネス機会の喪失、重要な業務の停滞、損害賠償請求及び重要な契約の解除等により、当社グループの業績及び事業計画に影響を及ぼす可能性があります。

当社グループでは、このようなサイバー攻撃等に対応できるよう情報システム部門の体制を強化するとともに、各種のセキュリティ対策を講じる等情報セキュリティの強化に努めてまいります。

(8) 訴訟等について

当社グループが事業活動を行うに当たっては、偶発的に発生する訴訟や訴訟に至らない請求等を受ける可能性があります。このような訴訟等が発生し、予期せぬ結果となった場合には、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

当社グループは、役職員に対しコンプライアンス意識の醸成のために定期的に啓蒙活動を行うと同時に、訴訟等の当事者となる可能性のある案件の発生を適切なモニタリングにより未然に防げるよう努めてまいります。

3【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループの財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下、「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

経営成績の状況

当連結会計年度におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けつつも経済社会活動の制限が緩和され、景気は持ち直しの兆しがみられました。その一方で、ウクライナ情勢の長期化に伴うエネルギーや原材料価格の高騰、世界的な金融引き締めによる急激な為替変動など、消費者の生活防衛意識が高まる不透明な状況が続いております。

このような経済環境の中、当社グループの主な事業領域であります携帯電話等販売市場におきましても、半導体不足に伴う商品の入荷遅延、円安、物価上昇による商品の価格上昇、一部の通信事業者がキャリア認定ショップの統廃合及びオンライン接客を推進する方針の発表、キャリア認定ショップにおいて独自の商材の取り扱いが認められる等、事業環境は大きく変化しております。

当社運営キャリアショップでは、デジタル・ディバイド（インターネットやパソコン等の情報通信技術を利用できる者と利用できない者との間に生じる格差）の解消に向けて、マイナンバーカードの申請サポート、有償による電話帳等のデータ移行等、多様なサービスを提供しました。法人ソリューション事業では、営業人員の増員、拠点の増設等、営業を強化するとともに、新商材の取り扱い等、今後の成長に向けた収益の多様化に努めました。

売上高及び売上総利益は、新料金プランの問い合わせで来店客数が増加した前連結会計年度の反動により携帯電話等販売件数が減少したことや、通信事業者から受け取る各種手数料が減少したことにより、前連結会計年度と比較して減収減益となりました。販売費及び一般管理費につきましては、店頭販促イベント費用が増加したものの、店舗運営の効率化に努めたことにより前連結会計年度と比較して減少しました。

以上の結果、当連結会計年度における業績は、売上高102,778百万円(前連結会計年度比4.2%減)、営業利益3,534百万円(同24.4%減)、経常利益3,588百万円(同22.8%減)、親会社株主に帰属する当期純利益2,521百万円(同23.1%減)となりました。

[ご参考：キャリアショップ数]

当社グループが運営するキャリアショップ数は、2022年12月末時点で358店舗となりました。

(2022年12月末時点)

	直営店	フランチャイズ	計
ソフトバンクショップ	250	48	298
ドコモショップ	8	-	8
auショップ	7	-	7
ワイモバイルショップ	37	8	45
合計	302	56	358

2021年12月末時点に比べ、直営店は1店舗減少、フランチャイズは8店舗減少しております。

財政状態の状況

(資産)

当連結会計年度末における総資産につきましては、前連結会計年度末に比べて257百万円増加し43,624百万円（前連結会計年度末43,366百万円）となりました。これは主に、商品が1,878百万円増加した一方で、現金及び預金が714百万円、売掛金が224百万円、のれんが247百万円、長期貸付金が341百万円減少したことによるものであります。

(負債)

当連結会計年度末における負債につきましては、前連結会計年度末に比べて1,311百万円減少し13,283百万円（前連結会計年度末14,595百万円）となりました。これは主に、買掛金が925百万円、未払費用が75百万円、未払法人税等が50百万円減少したことによるものであります。

(純資産)

当連結会計年度末における純資産につきましては、前連結会計年度末に比べて1,569百万円増加し30,340百万円（前連結会計年度末28,771百万円）となりました。これは主に、親会社株主に帰属する当期純利益による利益剰余金の増加2,521百万円、その他有価証券評価差額金の減少6百万円、前連結会計年度決算に係る期末配当及び当連結会計年度の中間配当の実施による利益剰余金の減少946百万円によるものであります。

この結果、自己資本比率は69.6%（前連結会計年度末66.3%）となりました。

キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）の残高は、前連結会計年度末（18,331百万円）と比べて714百万円減少し、17,616百万円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果、増加した資金は73百万円（前年同期は3,673百万円の資金の増加）となりました。これは主に税金等調整前当期純利益の計上3,786百万円、減価償却費315百万円、減損損失283百万円等による増加要因があった一方で、投資有価証券売却益146百万円、棚卸資産の増加による支出1,880百万円、仕入債務の減少による支出925百万円、法人税等の支払額1,364百万円等の減少要因があったことによるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果、増加した資金は172百万円（前年同期は1,250百万円の資金の減少）となりました。これは主に貸付金の回収による収入694百万円等による増加要因があった一方で、有形固定資産の取得による支出231百万円、貸付による支出258百万円等の減少要因があったことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果、減少した資金は960百万円（前年同期は6,134百万円の資金の減少）となりました。これは主に短期借入金の純減額14百万円、配当金の支払額945百万円等の減少要因があったことによるものであります。

（2）仕入及び販売の実績

当連結会計年度における仕入及び販売の実績は次のとおりであります。

なお、当社グループは情報通信機器販売サービス事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

仕入実績

当連結会計年度の商品仕入実績は、次のとおりであります。

事業部門の名称	当連結会計年度 自 2022年1月1日 至 2022年12月31日	前年同期比
情報通信機器販売サービス事業	76,192百万円	1.8%

販売実績

当連結会計年度の販売実績は、次のとおりであります。

事業部門の名称	品目	当連結会計年度 自 2022年1月1日 至 2022年12月31日	前年同期比
情報通信機器販売サービス事業	商品売上高	61,684百万円	10.7%
	受取手数料	41,094百万円	7.5%
	合計	102,778百万円	4.2%

（注）最近2連結会計年度の主要な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合は次のとおりであります。

相手先	前連結会計年度 自 2021年1月1日 至 2021年12月31日		当連結会計年度 自 2022年1月1日 至 2022年12月31日	
	金額	割合	金額	割合
ソフトバンク株式会社	34,472百万円	32.1%	37,667百万円	36.6%

(3) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。
なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

重要な会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されております。その作成には経営者による会計方針の選択・適用、資産・負債及び収益・費用の報告金額及び開示に影響を与える見積りを必要とします。経営者はこれらの見積りについて過去の実績等を勘案し合理的に判断しておりますが、実際の結果は、見積り特有の不確実性があるため、これらの見積りと異なる場合があります。

なお、会計上の見積りに対する新型コロナウイルス感染症の影響に関して、現時点で影響は軽微であり、当連結会計年度において会計上の見積りを行った結果、当連結会計年度における連結財務諸表に与える影響、及び翌連結会計年度における連結財務諸表に与える影響は軽微なものと判断しております。

連結財務諸表の作成にあたって用いた会計上の見積り及び仮定のうち、重要なものは次のとおりであります。

イ. 固定資産の減損

当社グループは、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として継続的に収支の把握を行っている管理会計上の区分に基づき資産のグルーピングを行っております。このうち減損の兆候がある資産グループについて、当該資産グループから得られる割引前将来キャッシュ・フローの総額が帳簿価額を下回る場合には、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として計上しております。減損の兆候の把握、減損損失の認識及び測定に当たっては慎重に検討しておりますが、将来キャッシュ・フローの見積額の前提とした条件や仮定に変更が生じた場合、減損処理が必要となる場合があります。

ロ. 関係会社に対する融資の評価

当社グループが有する長期貸付金には、非連結子会社である関係会社に対する融資が含まれております。当該関係会社に対する融資の評価については、事業計画をもとに融資の回収可能性を検討しておりますが、将来の予測不能な事業環境の著しい悪化等により見積りに用いた仮定が変化し、当該関係会社の経営成績及び財政状態がさらに悪化した場合、追加の損失が発生する可能性があります。

当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

イ. 財政状態

「(1) 経営成績等の状況の概要 財政状態の状況」に記載しております。

ロ. 経営成績

「(1) 経営成績等の状況の概要 経営成績の状況」に記載しております。

ハ. 経営成績に重要な影響を与える要因について

「第2 事業の状況 2 事業等のリスク」に記載しております。

ニ. キャッシュ・フローの状況並びに資本の財源及び資金の流動性についての分析

キャッシュ・フローの状況につきましては、「(1) 経営成績等の状況の概要 キャッシュ・フローの状況」に記載しております。

資本の財源及び資金の流動性につきましては、当社グループの資金需要の主なものは、携帯電話端末等の仕入並びに販売費及び一般管理費の営業費用の他、店舗等の設備投資であります。これらの資金需要に対する資金財源は、自己資金により十分な流動性を確保しているものと考えております。

ホ. 経営方針、経営戦略、経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

2022年12月期における当社グループの重要な経営指標の達成状況は次のとおりであります。

	2022年12月期 計画 (百万円)	2022年12月期 実績 (百万円)	達成率	2021年12月期 実績 (百万円)	前期比
売上高	100,000	102,778	102.8%	107,281	4.2%
営業利益	4,000	3,534	88.4%	4,677	24.4%
経常利益	4,000	3,588	89.7%	4,646	22.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,600	2,521	97.0%	3,277	23.1%
連結配当性向	30.3%	31.3%	-	30.1%	-

(注) 1. 2022年12月期の計画は、2022年2月9日に公表した数値を記載しております。

2. 上記経営指標の利用理由につきましては、「第2 事業の状況 1 経営方針、経営環境及び対処すべき課題等 (3) 経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等」に記載しております。

2022年12月期の売上高が計画値を上回り、各段階利益が計画値を下回った要因は、携帯電話等の販売価格が上昇したことに伴い、売上単価は計画値を上回ったものの携帯電話等の販売件数が計画値を下回ったことによるものであります。なお、2022年12月期の連結配当性向につきましては、中期定性目標どおりであります。

4 【経営上の重要な契約等】

当社グループは、移動体通信事業者等とキャリア認定ショップにおける業務の委託契約又は再委託契約を締結しております。

契約会社名	相手方の名称	契約の名称	契約品目	契約期間
株式会社 ベルパーク	ソフトバンク株式会社	代理店委託契約書	携帯電話等通信サービスの加入取次 (ソフトバンクショップ)	自 2022年4月1日 至 2023年3月31日 (自動更新)
			携帯電話等通信サービスの加入取次 (ワイモバイルショップ)	自 2022年4月1日 至 2023年3月31日 (自動更新)
	KDDI株式会社	代理店業務委託基本契約書	携帯電話等通信サービスの加入取次	自 2022年4月1日 至 2023年3月31日 (自動更新)
株式会社 ベルパーク ネクスト	株式会社NTTドコモ MXモバイル株式会社	業務再委託に関する覚書	携帯電話等通信サービスの加入取次	自 2022年4月1日 至 2023年3月31日 (自動更新)
	MXモバイル株式会社	代理店契約書	携帯電話等通信サービスの加入取次	自 2022年4月1日 至 2023年3月31日 (自動更新)
	株式会社NTTドコモ 株式会社ティーガイア	業務再委託に関する覚書	携帯電話等通信サービスの加入取次	自 2022年4月1日 至 2023年3月31日 (自動更新)
	株式会社ティーガイア	代理店契約書	携帯電話等通信サービスの加入取次	自 2022年6月1日 至 2023年5月31日 (自動更新)

5 【研究開発活動】

該当事項はありません。

第3【設備の状況】

当社グループは、情報通信機器販売サービス事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

1【設備投資等の概要】

当社グループでは、当連結会計年度において総額429,520千円の設備投資を実施しました。

その主な内訳は、新規出店、移転及び改修に伴う店舗設備・什器等の取得であります。

また、当連結会計年度において減損損失283,729千円を計上しております。減損損失の内容については、「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 注記事項(連結損益計算書関係) 3 減損損失」に記載のとおりであります。

なお、当連結会計年度において重要な設備の除却、売却等はありません。

2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は次のとおりであります。

(1) 提出会社

(2022年12月31日現在)

事業所名(所在地)	事業部門の名称	設備の内容	帳簿価額							従業員数(人)
			建物(千円)	構築物(千円)	機械及び装置(千円)	車両運搬具(千円)	工具、器具及び備品(千円)	その他(千円)	合計(千円)	
本社 (東京都千代田区)	情報通信機器販売サービス事業	事務所設備、什器及びソフトウェア等	45,826	-	-	1,244	10,125	60,422	117,618	238(48)
東海事務所 (愛知県名古屋市中村区)	情報通信機器販売サービス事業	事務所設備及び什器等	1,785	-	-	0	0	-	1,785	16(1)
関西事務所 (大阪府大阪市北区)	情報通信機器販売サービス事業	事務所設備及び什器等	9,985	-	-	0	374	-	10,360	15(-)
九州事務所 (福岡県福岡市博多区)	情報通信機器販売サービス事業	事務所設備及び什器等	467	-	-	631	108	-	1,207	8(-)
キャリアショップソフトバンク ショップ市ヶ谷 (東京都千代田区) 他294店舗	情報通信機器販売サービス事業	店舗設備及び什器等	1,706,333	99,528	30,194	-	107,615	-	1,943,672	1,459(459)

(注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、ソフトウェアであります。

2. 従業員数の()内は、外書きで平均臨時雇用者数であります。

(2) 国内子会社

(2022年12月31日現在)

会社名	事業所名(所在地)	事業部門の名称	設備の内容	帳簿価額						従業員数(人)
				建物(千円)	構築物(千円)	車両運搬具(千円)	工具、器具及び備品(千円)	土地(千円)	合計(千円)	
(株)ベルパークネクスト	ドコモショップ野方 (東京都中野区) 他7店舗	情報通信機器販売サービス事業	店舗設備及び什器等	56,320	5,885	0	5,029	38,900	106,135	93(36)

(注) 従業員数の()内は、外書きで平均臨時雇用者数であります。

3【設備の新設、除却等の計画】

当連結会計年度末における重要な設備の新設等の計画は次のとおりであります。

会社名	事業所名(所在地)	事業部門の名称	設備の内容	投資予定金額 (千円)	完了年月	開店年月
提出会社	キャリアショップ ソフトバンクショップ ららぽーと門真 (大阪府門真市) 他5店舗	情報通信機器販売 サービス事業	店舗設備及び什器等	122,231	2023年3月～4月	2023年3月～4月

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	79,110,000
計	79,110,000

(注)2022年1月1日付で実施した株式分割(普通株式1株を3株に分割)に伴い、発行可能株式総数は52,740,000株増加し79,110,000株となっております。

【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数(株) (2022年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2023年3月23日)	上場金融商品取引所名又は 登録認可金融商品取引業協 会名	内容
普通株式	20,197,800	20,197,800	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数 100株
計	20,197,800	20,197,800	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高(千円)
2022年1月1日 (注)	13,465,200	20,197,800	-	1,148,322	-	1,602,729

(注)株式分割(普通株式1株を3株に分割)によるものであります。

(5) 【所有者別状況】

2022年12月31日現在

区分	株式の状況 (1 単元の株式数100株)								単元未満株式の状況 (株)
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他	計	
					個人以外	個人			
株主数 (人)	-	4	4	45	6	4	3,621	3,684	-
所有株式数 (単元)	-	872	38	124,144	14,030	6	62,878	201,968	1,000
所有株式数の割合 (%)	-	0.43	0.02	61.47	6.95	0.00	31.13	100.00	-

(注) 1 . 自己株式957,060株は、「個人その他」に9,570単元、「単元未満株式の状況」に60株を含めて記載しております。

2 . 2022年12月31日現在の当社の株主数は、単元未満株式のみ所有の株主も含め3,773名であります。

(6) 【大株主の状況】

2022年12月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己株式を除く。) の総数に対する所有株式数の割合 (%)
株式会社日本ビジネス開発	東京都世田谷区成城 2 - 19 - 10	5,206,800	27.06
西川 猛	東京都世田谷区	4,331,700	22.51
光通信株式会社	東京都豊島区西池袋 1 - 4 - 10	2,272,400	11.81
株式会社UH Partners 3	東京都豊島区南池袋 2 - 9 - 9	1,904,500	9.90
株式会社UH Partners 2	東京都豊島区南池袋 2 - 9 - 9	1,904,500	9.90
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505224 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	P.O.BOX 351 BOSTON MASSACHUSETTS 02101 U.S.A. (東京都港区港南 2 - 15 - 1)	1,325,100	6.89
ソフトバンク株式会社	東京都港区海岸 1 - 7 - 1	715,500	3.72
株式会社エスアイエル	東京都豊島区南池袋 2 - 9 - 9	346,800	1.80
STATE STREET BANK AND TRUST CLIENT OMNIBUS ACCOUNT OMO2 505002 (常任代理人 株式会社みずほ銀行決済営業部)	100 KING STREET WEST, SUITE 3500, PO BOX 23 TORONTO, ONTARIO M5X 1A9 CANADA (東京都港区港南 2 - 15 - 1)	71,900	0.37
ベルパーク従業員持株会	東京都千代田区平河町 1 - 4 - 12	50,900	0.26
計	-	18,130,100	94.23

(7)【議決権の状況】
【発行済株式】

2022年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 957,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 19,239,800	192,398	-
単元未満株式	普通株式 1,000	-	-
発行済株式総数	20,197,800	-	-
総株主の議決権	-	192,398	-

(注)「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式60株が含まれております。

【自己株式等】

2022年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
株式会社ベルパーク	東京都千代田区平河町 一丁目4番12号	957,000	-	957,000	4.74
計	-	957,000	-	957,000	4.74

2【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 普通株式

(1)【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2)【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(円)
当事業年度における取得自己株式	69	140,628
当期間における取得自己株式	-	-

(注)当事業年度における取得自己株式は、単元未満株式の買取りによるものであります。

(4)【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額(円)	株式数(株)	処分価額の総額(円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、株式交付、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他	-	-	-	-
保有自己株式数	957,060	-	957,060	-

3【配当政策】

当社は、株主の皆様への利益還元を経営の重要課題と位置付け、連結配当性向30%以上を維持することを基本方針としております。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを方針としております。

これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

当事業年度の配当につきましては、上記の基本方針に基づき、中間配当20円50銭(普通配当)と期末配当20円50銭(普通配当)の合計41円00銭(普通配当)とすることを決定いたしました。この結果、当事業年度の連結配当性向は31.3%となりました。

また、次期(2023年12月期)の配当につきましては、連結配当性向37.6%を予定しており、2023年12月期の連結業績予想の親会社株主に帰属する当期純利益2,200百万円の場合、中間配当21円50銭(普通配当)と期末配当21円50銭(普通配当)の合計43円00銭(普通配当)となる予定であります。

内部留保資金につきましては、今後の事業環境の変化に対応するため、より一層の財務体質の強化を図るとともに、情報通信機器販売サービス事業を成長させるための収益性を勘案した投資を行うことにより、企業価値を高めてまいりたいと考えております。

当社は「取締役会の決議によって、毎年6月30日を基準日として中間配当をすることができる。」旨を定款に定めております。

当事業年度に係る剰余金の配当は次のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額(千円)	1株当たり配当額(円)
2022年8月4日 取締役会決議	394,436	20.50
2023年3月23日 定時株主総会決議	394,435	20.50

4【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1)【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社グループは、経営環境の変化に迅速に対応でき、経営の透明性が確保される経営管理体制を構築することをコーポレート・ガバナンスの基本的な考え方としております。経営環境の変化に迅速に対応するため、取締役会を重要事項の意思決定及び業務執行状況の監督を行う機関と位置付け、迅速な意思決定を推進してまいります。また、経営の透明性の確保については、コンプライアンス及びリスク管理体制の強化並びに適時開示の徹底等に努めてまいります。

企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由

イ．企業統治の体制の概要

当社は、取締役会設置会社、監査役会設置会社であります。

(取締役会及び取締役)

取締役会は、原則として毎月1回定期的に開催しております。提出日現在、当社の取締役会は3名の独立社外取締役を含めた8名の取締役(代表取締役社長 西川猛(議長)、古川等、石川洋、尾登知範、西川健士、秋田芳樹(独立社外取締役)、大西利佳子(独立社外取締役)、ジュラヴリョフ・オレグ(独立社外取締役))により構成され、当社の重要な業務執行を決定し、取締役の職務の執行を監督しております。

(監査役会及び監査役)

監査役会は、原則として毎月1回定期的に開催しております。提出日現在、当社の監査役会は2名の独立社外監査役を含めた3名の社外監査役(常勤監査役 藤井聡(議長・独立社外監査役)、山川隆久、佐藤誠(独立社外監査役))により構成されております。3名の監査役は、取締役会に出席し適宜意見を述べるほか、監査役監査を実施し、取締役の業務執行を監視できる体制となっております。また、会計監査人及び内部監査を担当する監査部と密接な連携を図ることにより、監査機能の強化を図っております。

(幹部会議)

当社では、代表取締役を含む常勤取締役、常勤監査役及び幹部社員で構成する幹部会議における報告・討議等に基づき、それぞれ業務を執行しております。幹部会議は、原則として毎月開催し、その事務局は経営企画部が担当しております。ただし、重要事項については、取締役会に報告・付議し、その審議を経て業務を執行することとしており、取締役会が業務執行状況の監督をしております。

(コンプライアンス及びリスク管理に関する委員会)

当社は、経営に重要な影響を与えるコンプライアンス及びリスク管理上の問題を検討し解決するため、代表取締役社長を委員長とするコンプライアンス及びリスク管理に関する委員会を設置しております。同委員会は当社のコンプライアンス規程及びリスク管理規程に定められた指針に準拠した適切な対応策を協議のうえ、取締役会への提言・報告を行っております。

(サステナビリティ推進委員会)

当社グループは、会社の持続的な成長とともに社会のサステナビリティ(持続可能性)への貢献の両立を推進するため、サステナビリティミッションとして「地球の素敵な未来のために」を掲げております。

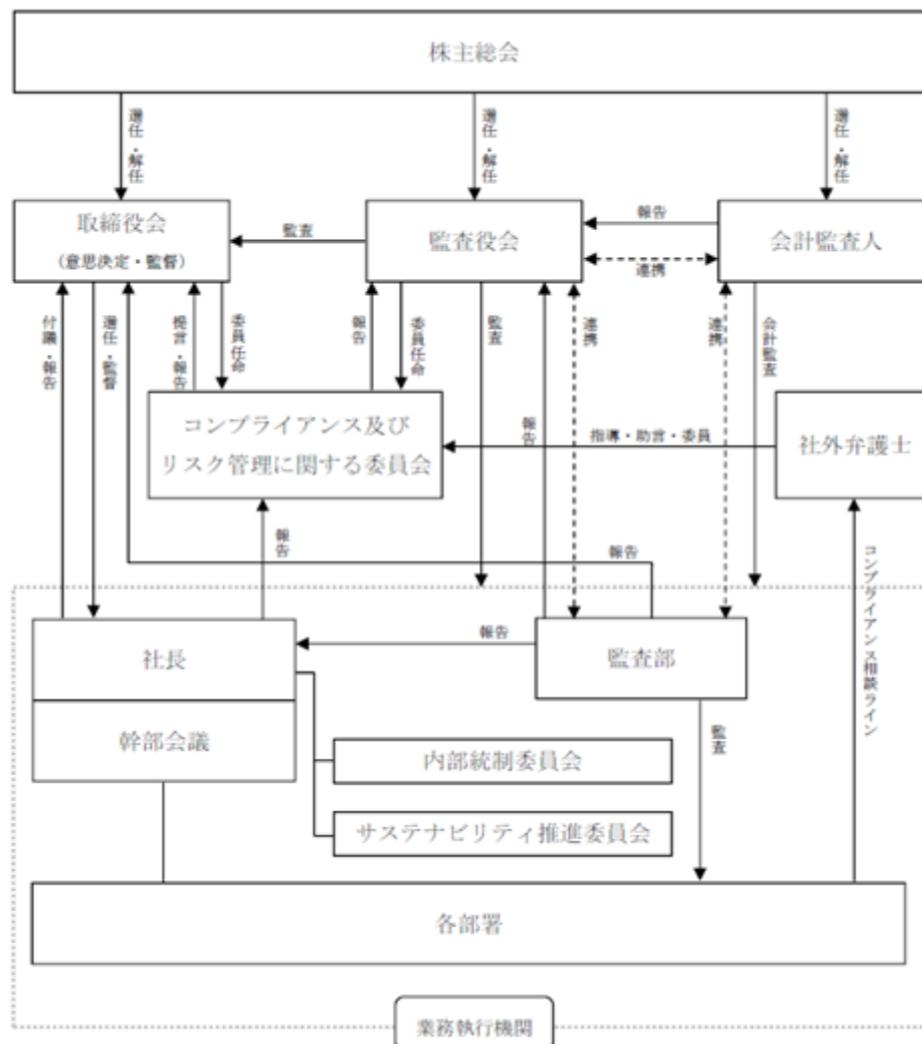
当社は、ESG(環境・社会・企業統治)等に係る各分野の課題への取組みを推進するため、代表取締役社長を委員長とするサステナビリティ推進委員会を設置しており、サステナビリティに関する方針、目標及び施策の審議、決定を行い、目標に対する取組みの進捗管理等の機能を担っております。

また、取締役会は、サステナビリティ推進委員会から取組状況、目標達成状況等の報告を受けることで、ESG等に係る各分野の課題への取組みを監視監督しております。

(監査部)

当社は、内部監査部門として、監査部を設置しており、内部監査担当の人員は8名であります。監査部は年間監査計画に従って内部監査を実施し、監査役及び会計監査人と相互に連携を図っております。

当社の企業統治体制の概要図は次のとおりであります。



ロ．当該体制を採用する理由

当社では、効率的な経営・執行体制の確立を図るために、独立社外監査役を含めた監査役による監査体制が経営監視機能として有効であると判断し、監査役会設置会社を採用しており、その経営監視機能を補完するために独立社外取締役複数名を選任し、取締役に対する実効性の高い監督体制を構築しております。

企業統治に関するその他の事項

イ．内部統制システムの整備の状況

内部統制システムに関する基本的な考え方及びその整備状況は、以下のとおりであります。

- 1) 当社の取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
 - a) コンプライアンスの確立に必要な知識と経験を有し、会社から独立した社外取締役を引き続き選任する。
 - b) コンプライアンスの確立に必要な知識と経験を有し、会社から独立した社外監査役を引き続き選任するとともに、監査役の監査環境の整備を図る。
 - c) 重要な業務執行については、取締役会に引き続き付議又は報告するものとする。
 - d) 独立した会計監査人による会計監査を引き続き実施し、会計の適正化を図る。
 - e) 倫理規程及びコンプライアンス規程の遵守を当社役員及び使用人に徹底する。
 - f) コンプライアンス及びリスク管理に関する委員会の委員に社外弁護士を引き続き任命する。
 - g) 各部署にコンプライアンス担当者を配置し、コンプライアンスに関する施策の実施、相談ラインの確保等に努める。
 - h) 内部監査規程に基づき、法令遵守の観点から業務監査を行う。
 - i) 業務執行部門から独立した部門である監査部による内部監査を引き続き実施する。
 - j) 各取締役が法令又は定款に違反する事実を発見したときには、取締役会において当該事実に関する報告を行わなければならないものとする。
 - k) 必要に応じて、役員及び使用人に対する研修を実施する。

- 2) 当社の取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制
- a) 文書管理規程に基づき、次の文書（電磁的記録を含む）について関連資料とともに同規程に定める期間保存・管理する。
- | | |
|----------|--------|
| ・株主総会議事録 | 永久保存 |
| ・取締役会議事録 | 10年間保存 |
| ・幹部会議事録 | 10年間保存 |
| ・計算書類 | 10年間保存 |
| ・稟議書 | 10年間保存 |
- b) 前項に掲げる文書以外の文書についても、その重要度に応じて、保管期間、管理方法等を同規程により定める。
- 3) 当社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制
- a) 適切なリスク管理の確立に必要な知識と経験を有し、会社から独立した社外取締役を引き続き選任する。
- b) 適切なリスク管理の確立に必要な知識と経験を有し、会社から独立した社外監査役を引き続き選任するとともに、監査役の監査環境の整備を図る。
- c) 独立した会計監査人による会計監査を引き続き実施し、会計の適正化を図る。
- d) 倫理規程の遵守を当社役員及び使用人に徹底する。
- e) コンプライアンス及びリスク管理に関する委員会の委員に社外弁護士を引き続き任命する。
- f) 業務執行部門から独立した部門である監査部による内部監査を引き続き実施する。
- g) 各取締役が会社に著しい損害を与えるおそれのある事実を発見したときには、取締役会において当該事実に関する報告を行わなければならないものとする。
- h) 必要に応じて役員及び使用人に対する研修を実施する。
- 4) 当社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保する体制
- a) 当社の取締役会は、経営に関わる重要な事項の審議及び意思決定並びに経営全般に対する監督を行う。
- b) 当社の取締役は、取締役会が定める組織規程及び職務権限規程に基づき、所管する業務を執行する。
- 5) 当社及び当社子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制
- a) 当社は、関係会社管理規程に基づき、当社子会社の経営成績その他の重要な事項について、当社へ定期的に報告を求める。
- b) 当社の取締役会は、関係会社管理規程に基づき、当社子会社の経営に関わる重要な事項を審議及び意思決定する。
- c) 当社子会社の取締役は、当社子会社の社内規程に基づき、所管する業務を執行する。
- d) 当社は、経営理念及び企業行動指針に基づき、当社及び当社子会社のコンプライアンス体制の構築に努める。
- e) 当社子会社のコンプライアンス及びリスク管理に関する委員会の委員に社外弁護士を引き続き任命する。
- f) 必要に応じて、当社子会社の役員及び使用人に対する研修を実施する。
- g) 当社の監査部は、当社子会社に対して定期又は臨時に業務監査を行う。
- 6) 当社の監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項
当社の監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合には、取締役会において監査役との意見交換を行い、必要に応じ、使用人を配置する。
- 7) 監査役を補助すべき使用人の当社の取締役からの独立性に関する事項
監査役を補助すべき使用人については、取締役からの独立を確保するため、監査役の指揮命令に服するものとし、その職務執行に関連して、人事評価、異動、懲戒等において不利益な扱いがなされないものとする。
- 8) 当社及び当社子会社の取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制その他監査役への報告に関する体制
- a) 監査役は当社及び当社子会社の取締役会その他の重要な会議において、経営及び業務上の重要な事項の報告を受けるものとする。
- b) 監査役が必要に応じ業務執行に関する事実の報告を求めたときは、当社及び当社子会社の取締役は自ら報告し、又は使用人に報告させなければならないものとする。

c) 当社及び当社子会社の取締役及び監査部の長は、法令若しくは定款に違反する事実又は会社に著しい損害を与えるおそれのある事実を発見したときは、その事実を監査役に報告しなければならないものとする。

d) 監査部の長は、監査役に対して当社及び当社子会社の内部監査結果を報告する。

9) 監査役へ報告した者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制

監査役へ上記の報告をした当社の取締役及び使用人並びに当社子会社の役員及び使用人に対し、当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを行うことを禁止する。

10) 当社の監査役の職務の執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項

当社は監査役がその職務の執行について必要な費用の前払い等の請求をしたときは、速やかに当該費用又は債務を処理する。

11) その他監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

a) 代表取締役は監査役と定期的な意見交換の場を設け、会社運営に関する意見の交換のほか意思の疎通を図る。

b) 当社は、効果的な監査業務の遂行のため、監査役と監査部との連携を図る。

12) 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方及びその体制

a) 反社会的勢力排除に向けた基本的な考え方

当社は、市民社会の秩序又は安全に脅威を与える反社会的勢力と一切の関係を遮断することを基本方針とする。

b) 反社会的勢力排除に向けた整備状況

リスク管理部を対応統括部署とし、警察、暴力追放運動推進センター、弁護士、外部専門会社等の外部専門機関と連携を深め、反社会的勢力への対応に関し、協力又は支援を得ることとする。また、リスク管理部において、対応マニュアルを整備し、役員及び使用人への周知徹底を図るため、適宜コンプライアンス研修を実施する。

ロ．リスク管理体制の整備の状況

上記（内部統制システムの整備の状況）に記載しましたとおり、コンプライアンス及びリスク管理に関する委員会において、従業員からの相談の受け付けや、法令等違反が疑われる行為の事実関係の把握、及び違反があった場合の再発防止、処分等の検討を行っております。

ハ．提出会社の子会社の業務の適正を確保するための体制整備の状況

当社は、関係会社管理規程に基づき、当社子会社の経営成績その他の重要な事項について、当社へ定期的に報告を求めるとともに、当社の取締役会において、当社子会社の経営に関わる重要な事項の審議及び意思決定を行っております。

また、当社の監査部は、内部監査規程に基づき、法令遵守の観点から当社子会社の業務監査を実施することで当社子会社の業務の適正の確保に努めております。

ニ．責任限定契約の内容の概要

当社と取締役（業務執行取締役等であるものを除く。）及び監査役は、会社法第427条第1項及び定款の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。

当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、法令の定める最低責任限度額としております。

ホ．役員等賠償責任保険契約の内容の概要

当社は、会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を保険会社との間で締結し、被保険者が会社の役員等の職位に基づき行った行為（不作為を含む）に起因して損害賠償請求がなされたことにより、被保険者が負担することとなる法律上の損害賠償金及び争訟費用を填補いたします。ただし、法令に違反することを認識して行った行為に起因して生じた損害は賠償されない等、一定の免責事由があります。なお、当該役員等賠償責任保険契約の被保険者は、当社及び当社子会社の取締役及び監査役であり、その保険料を全額当社が負担しております。

取締役に関する事項

イ．取締役の定数

当社の取締役は、10名以内とする旨を定款に定めております。

ロ．取締役の選任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行い、累積投票によらないものとする旨を定款に定めております。

株主総会に関する事項

イ．株主総会の決議事項を取締役会で決議することができるとした事項

1) 自己の株式の取得

当社は、経済情勢の変化に対応して資本政策を機動的に遂行することを可能とするため、会社法第165条第2項の定めにより、取締役会の決議をもって市場取引等により、自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。

2) 中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を可能とするため、取締役会の決議によって、毎年6月30日を基準日として中間配当をすることができる旨を定款に定めております。

3) 取締役及び監査役の責任免除

当社は、会社法第426条第1項の規定により、取締役会の決議をもって同法第423条第1項の行為に関する取締役（取締役であった者を含む）及び監査役（監査役であった者を含む）の責任を法令の限度において免除することができる旨定款に定めております。これは、取締役及び監査役が業務を遂行するにあたり、期待される役割を十分に発揮できるようにすることを目的とするものであります。

ロ．株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

(2) 【役員の状況】

役員一覧

男性 10名 女性 1名 (役員のうち女性の比率 9.1%)

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
代表取締役 社長	西川 猛	1956年11月5日生	1993年2月 当社監査役 1995年4月 当社代表取締役副社長 1996年2月 当社代表取締役社長(現任) 2014年2月 株式会社OCモバイル(現株式会社ベルパークネクスト) 代表取締役社長(現任) 2014年12月 一般社団法人全国携帯電話販売代理店協会副会長(現任)	(注)3	4,331,885
取締役 営業本部長	古川 等	1965年9月13日生	2004年3月 当社入社 当社東海営業本部副本部長 2005年1月 当社東海通信事業本部副本部長 2006年4月 当社東海通信事業本部長 2006年8月 当社関東移動体事業本部長 2008年1月 当社移動体コンシューマ事業本部長 2009年4月 当社営業本部長 2013年3月 当社取締役営業本部長(現任)	(注)3	4,869
取締役 管理本部長	石川 洋	1967年2月9日生	1999年8月 当社入社 1999年9月 当社取締役管理部長 2000年7月 当社取締役管理本部長 2004年3月 当社執行役員管理本部長 2009年3月 当社管理本部長 2013年3月 当社取締役管理本部長(現任) 2014年2月 株式会社OCモバイル(現株式会社ベルパークネクスト) 取締役(現任) 2019年12月 株式会社ワクティブ取締役(現任)	(注)3	7,869
取締役 営業本部 副本部長	尾登 知範	1974年3月27日生	2005年6月 当社入社 2013年2月 当社営業本部直営店営業部長 2015年2月 当社営業本部SoftBank事業部長 2016年4月 当社営業本部長 2018年3月 当社取締役営業本部長 2020年2月 当社取締役営業本部副本部長(現任)	(注)3	2,773
取締役 事業開発室長	西川 健士	1987年10月21日生	2011年4月 株式会社損保ジャパン(現損害保険ジャパン株式会社) 入社 2019年4月 当社入社 株式会社日本ビジネス開発取締役 2020年4月 株式会社日本ビジネス開発代表取締役社長 2021年3月 当社取締役 2021年4月 当社取締役事業開発室長(現任) 2023年1月 株式会社日本ビジネス開発代表取締役会長(現任)	(注)3	89
取締役	秋田 芳樹	1952年2月12日生	1978年10月 アーサーアンダーセン&カンパニー日本事務所入所 1984年9月 公認会計士登録 1986年8月 アーサーアンダーセンシカゴ事務所日系ビジネス責任者 1994年1月 アーサーアンダーセンインターナショナルパートナー 1995年6月 朝日監査法人(現有限責任 あずさ監査法人)代表社員 朝日アーサーアンダーセン株式会社(その後KPMGコンサル ティング株式会社との事業統合を経てベリングポイント株 式会社に社名変更、現在はPwCコンサルティング合同会社) 代表取締役 2002年1月 同社代表取締役社長兼CEO 2002年6月 KPMGコンサルティング株式会社(その後ベリングポイント 株式会社に社名変更、現在はPwCコンサルティング合同会 社)代表取締役社長 2006年3月 当社社外取締役(現任) 2007年9月 株式会社レイヤーズ・コンサルティング代表取締役会長 (現任) 2012年6月 株式会社安川電機社外取締役 2015年6月 同社社外取締役監査等委員	(注)3	5,609

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)
取締役	大西 利佳子	1974年6月16日生	1997年4月 株式会社日本長期信用銀行（現株式会社SBI新生銀行）入行 2002年10月 株式会社パートナーズスタッフ（現株式会社コトラ）設立 代表取締役（現任） 2017年3月 当社社外取締役（現任） 2019年6月 株式会社東和銀行社外取締役（現任） 2021年12月 株式会社キーストン・パートナーズ社外取締役（現任） 2022年4月 マテリアルグループ株式会社社外取締役監査等委員（現任）	(注)3	-
取締役	ジュラヴリョフ・オレグ	1972年5月8日生	1998年2月 フィデリティ投信株式会社入社 2003年1月 ガートモア・アセットマネジメント株式会社入社 2009年2月 株式会社シェアードリサーチ設立 代表取締役 2013年3月 当社社外取締役 2014年3月 株式会社レグス（現株式会社CLホールディングス）社外 取締役 2016年10月 株式会社シェアードリサーチ代表取締役会長（現任） 2022年3月 当社社外取締役（現任）	(注)3	-
常勤監査役	藤井 聡	1960年10月11日生	1985年4月 株式会社三井銀行（現株式会社三井住友銀行）入行 2008年4月 同行グローバル・アドバイザー部副部長 2011年4月 同行監査部国際業務監査グループ上席審査役 2016年8月 株式会社スクウェア・エニックス・ホールディングス入社 同社グループ内部監査室室長 2023年1月 当社一時監査役 2023年3月 当社常勤社外監査役（現任）	(注)4	-
監査役	山川 隆久	1956年12月28日生	1981年4月 衆議院法制局入局 1985年4月 弁護士登録 石原総合法律事務所入所 2001年3月 当社社外監査役（現任） 2002年3月 ルネス総合法律事務所開設（現任） 2011年5月 ミニストップ株式会社社外監査役 2015年5月 同社社外取締役（現任） 2015年6月 川田テクノロジー株式会社社外取締役（現任）	(注)5	-
監査役	佐藤 誠	1948年8月5日生	1972年4月 住友商事株式会社入社 2002年4月 同社理事自動車事業本部長 2003年4月 同社執行役員自動車事業本部長 2006年4月 同社常務執行役員自動車事業第一本部長 2009年4月 同社顧問 2009年6月 住友三井オートサービス株式会社代表取締役社長最高経営 責任者 2013年6月 同社特別顧問 2014年6月 ジューテックホールディングス株式会社社外取締役（現 任） 2019年3月 当社社外監査役 2023年1月 当社常勤社外監査役 2023年3月 当社社外監査役（現任）	(注)4	1,869
計					4,354,963

- (注) 1. 取締役秋田芳樹氏、大西利佳子氏及びジュラヴリョフ・オレグ氏は、社外取締役であります。
2. 監査役藤井聡氏、山川隆久氏及び佐藤誠氏は、社外監査役であります。
3. 2023年3月23日開催の定時株主総会の終結の時から1年間
4. 2023年3月23日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
5. 2020年3月24日開催の定時株主総会の終結の時から4年間
6. 所有株式数は役員持株会における各自の持分を含めた実質所有株式数であります。なお、提出日現在における役員持株会の取得株式数を確認することができないため、2023年2月末日現在の実質所有株式数を記載しております。
7. 取締役西川健士氏は、代表取締役社長西川猛氏の二親等以内の親族であります。
8. 監査役敦谷敏一氏が2023年1月6日に逝去により退任し、監査役会設置会社としての監査役の員数に1名の欠員が生じることとなったため、藤井聡氏を候補者として会社法第346条第2項に定める一時監査役の選任の申立てを東京地方裁判所に行い、2023年1月26日付で同氏が一時監査役に選任され就任いたしました。また、同氏は2023年3月23日開催の定時株主総会において監査役に選任され就任しております。

9. 取締役及び監査役のスキル・マトリックスは以下のとおりであります。なお、取締役及び監査役が有する全てのスキルを表すものではありません。

	氏名	販売店運営	異業種経営	人材育成	ESG	財務・会計	法務・リスク管理	グローバル
取締役	西川 猛							
	古川 等							
	石川 洋							
	尾登 知範							
	西川 健士							
	秋田 芳樹							
	大西 利佳子							
	ジュラヴリョフ・オレグ							
監査役	藤井 聡							
	山川 隆久							
	佐藤 誠							

社外役員の状況

イ. 独立性判断基準

当社の社外取締役及び社外監査役（以下、「社外役員」という。）、又は社外役員候補者が以下のいずれにも該当しない場合には、独立性を有しているものと判断いたします。

- 1) 当社の現在の主要株主、又は当該主要株主、その親会社若しくは重要な子会社の取締役等
 - 2) 当社が現在主要株主である会社の取締役等
 - 3) 当社及び子会社（以下、「当社グループ」という。）を主要な取引先とする者
 - 4) 当社グループを主要な取引先とする会社の業務執行取締役、執行役、執行役員又は支配人その他の使用人である者
 - 5) 当社の主要な取引先である者
 - 6) 当社の主要な取引先である会社の業務執行取締役、執行役、執行役員又は支配人その他の使用人である者
 - 7) 当社グループから一定額を超える寄付又は助成を受けている者
 - 8) 当社グループから一定額を超える寄付又は助成を受けている法人、組合等の団体の理事その他の業務執行者である者
 - 9) 当社グループから取締役（常勤・非常勤を問わない）を受け入れている会社、その親会社若しくは子会社の取締役等
 - 10) 現在当社グループの会計監査人又は会計参与である公認会計士（若しくは税理士）又は監査法人（若しくは税理士法人）の社員、パートナー又は従業員である者
 - 11) 当社グループから役員報酬以外に、一定額を超える金銭その他の財産上の利益を受けている弁護士、公認会計士、税理士又はコンサルタント等
 - 12) 当社グループから、一定額を超える金銭その他の財産上の利益を受けている法律事務所、監査法人、税理士法人又はコンサルティング・ファーム等の法人、組合等の団体に所属する者
 - 13) 上記1)、2)、9)に過去5年間において該当していた者
 - 14) 上記3)～8)、10)に過去3年間において該当していた者
 - 15) 上記1)～14)に該当する者が重要な者である場合において、その者の配偶者又は二親等以内の親族
- （注）1. 1)及び2)において、主要株主とは、10%以上の議決権を保有する株主をいう。
2. 1)、2)及び9)において、取締役等とは、取締役、監査役、会計参与、執行役、理事、執行役員又は支配人その他の使用人をいう。
3. 3)及び4)において、「当社グループを主要な取引先とする者（又は会社）」とは、「直近事業年度におけるその者（又は会社）の年間連結売上高の2%以上の支払いを当社グループから受けた者（又は会社）」をいう。
4. 5)及び6)において、「当社の主要な取引先である者（又は会社）」とは、「直近事業年度における当社の年間連結売上高の2%以上の支払いを当社に行っている者（又は会社）、直近事業年度末における当社の連結総資産の2%以上の額を当社に融資している者（又は会社）」をいう。
5. 7)、8)及び11)において、「一定額」とは、「年間1,000万円」であることをいう。
6. 12)において、「一定額」とは、「直近事業年度における法人等の総売上高の2%以上又は3,000万円のいずれか高い方」であることをいう。

ロ．会社と社外取締役及び社外監査役との人的関係、資本的關係又は取引關係その他の利害關係の概要

当社の社外取締役は3名、社外監査役は3名であります。

社外取締役である秋田芳樹氏は、公認会計士やコンサルティング会社代表取締役としての豊富な経験と知見を有しております。この経験等をもとに、当社の経営戦略の策定及び業務執行の意思決定に第三者の視点からの助言や関与が期待できるものと判断し、社外取締役に選任しております。なお、同氏と当社との間には、役員持株会を通じての当社株式の保有を除き、人的関係、資本的關係及び重要な取引關係その他の特別な利害關係はありません。また、同氏は、東京証券取引所が定める独立性基準並びに当社が定める社外役員の独立性に関する基準に抵触しておらず、一般株主と利益相反が生じるおそれはないものと判断し、独立役員に指定しております。

社外取締役である大西利佳子氏は、金融機関での業務経験や人材紹介会社代表取締役としての豊富な経験と知見を有しております。この経験等をもとに、当社の経営戦略の策定及び業務執行の意思決定に第三者の視点からの助言や関与が期待できるものと判断し、社外取締役に選任しております。なお、同氏と当社との間には、人的関係、資本的關係及び重要な取引關係その他の特別な利害關係はありません。また、同氏は、東京証券取引所が定める独立性基準並びに当社が定める社外役員の独立性に関する基準に抵触しておらず、一般株主と利益相反が生じるおそれはないものと判断し、独立役員に指定しております。

社外取締役であるジュラヴリョフ・オレグ氏は、長年にわたる証券運用業務への従事や企業リサーチ会社の代表取締役としての豊富な経験と知見を有しております。この経験等をもとに、当社の経営戦略の策定及び業務執行の意思決定に投資家の視点からの助言や関与が期待できるものと判断し、社外取締役に選任しております。なお、同氏が代表取締役会長を務める株式会社シェアードリサーチの子会社と当社との間には、当該子会社が提供するサービスの利用に関する取引がありますが、その取引金額は一般的な取引条件と同様に決定しており、かつ、株式会社シェアードリサーチの直近事業年度における年間連結売上高の2%未満の金額となります。従って、東京証券取引所が定める独立性基準並びに当社が定める社外役員の独立性に関する基準に抵触しておらず、一般株主と利益相反が生じるおそれはないものと判断し、独立役員に指定しております。

社外監査役である藤井聡氏は、会社の経営に関与された経験はありませんが、他の会社での監査業務を通して培った豊富な知識と経験を有しており、その知識と経験を当社の監査に活かしていただけることを期待し、社外監査役に選任しております。なお、同氏と当社との間には、人的関係、資本的關係及び重要な取引關係その他の特別な利害關係はありません。また、同氏は、東京証券取引所が定める独立性基準並びに当社が定める社外役員の独立性に関する基準に抵触しておらず、一般株主と利益相反が生じるおそれはないものと判断し、独立役員に指定しております。

社外監査役である山川隆久氏は、弁護士として培ってきた法的な専門知識と経験を有しており、その知識と経験を当社の監査に活かしていただけることを期待し、社外監査役に選任しております。なお、同氏は当社の法律顧問であり、当社より弁護士報酬を支払っておりますが、一般的な取引条件と同様に決定しております。

社外監査役である佐藤誠氏は、他の会社の経営者としての豊富な経験と高い見識を有しており、その経験と見識を当社の監査に活かしていただけることを期待し、社外監査役に選任しております。なお、同氏と当社との間には、役員持株会を通じての当社株式の保有を除き、人的関係、資本的關係及び重要な取引關係その他の特別な利害關係はありません。また、同氏は、東京証券取引所が定める独立性基準並びに当社が定める社外役員の独立性に関する基準に抵触しておらず、一般株主と利益相反が生じるおそれはないものと判断し、独立役員に指定しております。

社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外取締役は、取締役会を通じて、内部監査、監査役監査の結果及び内部統制部門の状況について報告を受けるとともに、必要に応じて適宜意見を述べております。

社外監査役における当該相互連携状況等については、「(3) 監査の状況」に記載しております。

(3) 【監査の状況】

監査役監査の状況

イ．組織及び人員

当社の監査役会の体制は、4 [コーポレート・ガバナンスの状況] (1) [コーポレート・ガバナンスの概要] 企業統治の体制の概要及び当該体制を採用する理由に記載のとおりであります。

なお、常勤監査役藤井聡氏は、他の会社での監査業務を通して培った豊富な知識と経験があり、内部監査に関する相当程度の知見を有しております。監査役山川隆久氏は、弁護士として培ってきた法的な専門知識と経験があり、コンプライアンスに関する相当程度の知見を有しております。監査役佐藤誠氏は、他の会社の経営者としての豊富な経験と高い見識があり、経営に関する相当程度の知見を有しております。

ロ．監査役及び監査役会の活動状況

(監査役会の開催頻度及び各監査役の出席状況)

監査役会は、原則として毎月1回定期的に開催しており、必要に応じて随時開催されます。当事業年度における監査役会の開催回数及び各監査役の出席状況は次のとおりであります。

役職名	氏名	出席回数/開催回数	出席率
常勤監査役(社外・独立)	敦谷 敬一	13回/13回	100%
社外監査役	山川 隆久	13回/13回	100%
社外監査役(独立)	佐藤 誠	13回/13回	100%

(監査役会における主な検討事項)

当事業年度における監査役会における主な検討事項として、監査方針・監査計画及び役割分担、会計監査人の監査の相当性・評価・報酬、並びに監査報告書案等に関して審議しております。

(監査役の活動状況)

当事業年度において、常勤監査役は、取締役会その他重要な会議への出席、重要な決裁書類等の閲覧、会計監査人の実地棚卸立会い、業務執行取締役との定期的な面談、並びに会計監査結果報告及び内部監査結果の確認等により業務執行状況を把握し、監査役監査を行っております。

非常勤の社外監査役は、取締役会への出席、常勤監査役からの情報提供及び会計監査結果の確認等により業務執行状況を把握し、監査役監査を行っております。

内部監査の状況等

イ．内部監査

当社は、内部監査部門として、監査部を設置しており、内部監査担当の人員は8名であります。監査部は年間監査計画に従って内部監査を実施しております。

ロ．内部監査、監査役監査及び会計監査の相互連携並びにこれらの監査と内部統制部門との関係

監査役は、会計監査人から会計監査の監査方法及び監査結果等について定期的に報告を受け、また必要に応じて随時情報交換することで相互に連携を図っております。

監査役と監査部は、必要に応じて随時情報交換することで相互に連携を図っております。また、常勤監査役が監査部から内部監査報告を受けることにより、監査役監査の充実に努めております。

監査部と会計監査人は、監査部の実施した内部監査結果等について、情報交換及び意見交換することで緊密な連携を図っております。

なお、常勤監査役及び監査部は、内部統制委員会において内部統制部門により報告される内部統制の構築及び評価の状況等について情報を収集するほか、内部統制部門とも適宜協議しながら、内部統制手続きの有効性や運用状況等の情報を共有しております。

会計監査の状況

イ．監査法人の名称

有限責任 あずさ監査法人

ロ．継続監査期間

17年間

八．業務を執行した公認会計士

指有限責任社員 業務執行社員 小出 健治

指有限責任社員 業務執行社員 成島 徹

二．監査業務に係る補助者の構成

会計監査業務の補助者は有限責任 あずさ監査法人に所属する公認会計士4名、その他4名の計8名により構成されております。

ホ．監査法人の選定方針と理由

当社の監査役会は、監査役会が定めた会計監査人の選定基準に則り、会計監査人の概要、実施体制等及び監査報酬の見積額についての書面を入手し、面談、質問等を行い、会計監査人の品質管理体制、独立性、専門性及び監査報酬額等が適正である旨を確認の上、選定する方針であります。

監査役会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき、会計監査人を解任いたします。

また、監査役会は、会計監査人の適格性、独立性を害する事由等の発生により、適正な監査の遂行が困難であると認められる場合には、監査役会の決議により、株主総会に提出する会計監査人の解任又は不再任に関する議案の内容を決定いたします。

ヘ．監査役及び監査役会による監査法人の評価

当社の監査役会は、毎年、監査役会が定めた会計監査人の評価基準に則り、会計監査人の品質管理、独立性、専門性及び報酬の水準等について評価しております。この評価の結果、現時点で会計監査人の解任又は不再任とすべき事由はありません。

監査報酬の内容等

イ．監査公認会計士等に対する報酬

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬（千円）	非監査業務に基づく報酬（千円）	監査証明業務に基づく報酬（千円）	非監査業務に基づく報酬（千円）
提出会社	36,500	-	35,000	-
連結子会社	-	-	-	-
計	36,500	-	35,000	-

ロ．監査公認会計士等と同一のネットワーク（KPMG）に対する報酬（イ．を除く）

該当事項はありません。

ハ．その他の重要な監査証明業務に基づく報酬の内容

該当事項はありません。

二．監査報酬の決定方針

当社では監査報酬の決定方針は定めておりませんが、当社の規模・業務の特性等に基づいた監査日数・要員数等を総合的に勘案し、監査公認会計士等と協議を行い、監査役会の同意を得た上で決定しております。

ホ．監査役会が会計監査人の報酬等に同意した理由

監査役会は、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況及び報酬見積りの算出根拠等が適切であるかどうかについて必要な検証を行ったうえで、会計監査人の報酬等の額について同意の判断をいたしました。

(4) 【役員の報酬等】

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

イ．取締役報酬

取締役の報酬は、業務執行取締役、社外取締役とともに固定報酬のみとし、現時点では、短期又は中長期の業績と直接連動するインセンティブ報酬及び株式又は新株予約権による報酬は採用しておりません。

業務執行取締役の個人別の固定報酬は、当社グループの業績、当該取締役の職務の内容及び実績を考慮して総合的に決定しております。

社外取締役の個人別の固定報酬は、当該取締役の職務の内容及び上場会社一般の水準を考慮して決定しております。

上記に係る取締役の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する役職ごとの方針は定めておりません。

ロ．監査役報酬

監査役報酬は、取締役の職務執行を監査する独立的な立場であることに鑑み、固定報酬のみとしております。

ハ．役員の報酬等に関する株主総会決議の内容

2023年3月23日開催の第30回定時株主総会において、取締役の報酬限度額については年額200百万円以内（うち、社外取締役分40百万円以内）、監査役報酬限度額については年額50百万円以内として決議しております。なお、当該定時株主総会終結時点の取締役の員数は8名（うち、社外取締役は3名）、監査役の員数は3名であります。

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の決定権限

イ．決定権限を有する者、権限の内容及び裁量の範囲

取締役の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針の決定権限を有する者は取締役会であり、その権限の内容及び裁量の範囲は、個人別の取締役の報酬額の決定であります。

監査役報酬は、監査役協議により決定しております。

ロ．報酬等の額の決定過程における取締役会の活動内容

代表取締役が社外取締役から適切な助言を得た上で、個人別の取締役の報酬額を取締役に提案し、これを取締役会で審議した上で決定しております。

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (千円)	報酬等の種類別の総額(千円)			対象となる 役員の員数 (人)
		固定報酬	業績連動報酬	退職慰労金	
取締役 (社外取締役を除く)	52,800	52,800	-	-	5
監査役 (社外監査役を除く)	-	-	-	-	-
社外役員	35,800	35,800	-	-	7

(注) 取締役(社外取締役を除く)の報酬等の総額並びに報酬等の種類別の総額(固定報酬)には、複数事業主型確定給付企業年金基金への拠出額30,000千円が含まれております。

当事業年度に係る取締役の個人別の報酬等の内容が決定方針に沿うものであると取締役会が判断した理由

当事業年度に係る取締役の個人別の報酬等の決定にあたっては、業務執行取締役については当社グループの業績、当該取締役の職務の内容及び実績に基づき、社外取締役については当該取締役の職務の内容及び上場会社一般の水準に基づき、代表取締役が独立社外取締役の適切な助言を得た上で、取締役の個人別の報酬等を取締役に提案し、決定していることから、その内容が取締役の個人別の報酬等の決定方針に沿うものであると判断しております。

(5) 【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、保有目的が純投資目的である投資株式と純投資目的以外の目的である投資株式の区分について、投資目的が、株式の価値の変動又は株式に係る配当によって利益を受けることを目的とする投資株式を純投資目的である投資株式とし、それ以外の目的の投資株式を純投資目的以外の目的である投資株式（政策保有株式）として区分しております。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

イ．保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

当社の保有する政策保有株式に係る保有の合理性を検証する方法は、毎年、取締役会において、個別の政策保有株式について、保有目的の達成状況、保有に伴う便益及びリスク等を検証し、継続保有の適否を判断いたします。

ロ．銘柄数及び貸借対照表計上額

該当事項はありません。

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

該当事項はありません。

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

該当事項はありません。

保有目的が純投資目的である投資株式

区分	当事業年度		前事業年度	
	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(千円)	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(千円)
非上場株式	2	10,000	2	11,618
非上場株式以外の株式	1	34,286	1	42,448

区分	当事業年度		
	受取配当金の 合計額(千円)	売却損益の 合計額(千円)	評価損益の 合計額(千円)
非上場株式	-	-	1,618
非上場株式以外の株式	-	4,039	-

第5【経理の状況】

1．連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。以下「連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。)に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(2022年1月1日から2022年12月31日まで)の連結財務諸表及び事業年度(2022年1月1日から2022年12月31日まで)の財務諸表について、有限責任あずさ監査法人による監査を受けております。

3．連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、会計基準等の内容を適切に把握するとともに、会計基準等の変更等についての的確に対応するための体制整備を行っております。また、関係する法令・会計制度の動向を把握するため、監査法人やディスクロージャー専門会社が主催するセミナーに適宜参加しております。

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当連結会計年度 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	18,331,617	17,616,674
売掛金	11,126,450	10,902,060 ²
商品	6,800,650	8,679,203
貯蔵品	132,493	244,328
未収入金	172,576	132,336
その他	436,655	373,218
流動資産合計	37,000,444	37,947,820
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	3,018,422	3,177,697
減価償却累計額	1,143,298	1,251,200
建物及び構築物(純額)	1,875,124	1,926,497
機械及び装置	-	30,960
減価償却累計額	-	765
機械及び装置(純額)	-	30,194
車両運搬具	18,498	21,175
減価償却累計額	18,474	19,299
車両運搬具(純額)	23	1,875
工具、器具及び備品	551,134	526,828
減価償却累計額	364,849	403,461
工具、器具及び備品(純額)	186,285	123,367
土地	38,900	38,900
有形固定資産合計	2,100,332	2,120,834
無形固定資産		
のれん	436,410	188,608
その他	93,092	65,902
無形固定資産合計	529,503	254,510
投資その他の資産		
投資有価証券	180,470 ³	158,272 ³
長期貸付金	641,745	300,716
敷金	2,232,339 ⁴	2,154,468
繰延税金資産	617,254	672,427
その他	163,458	145,460
貸倒引当金	98,721	130,087
投資その他の資産合計	3,736,546	3,301,258
固定資産合計	6,366,382	5,676,602
資産合計	43,366,826	43,624,423

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当連結会計年度 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	9,934,422	9,009,415
短期借入金	14,802	-
未払金	844,190	923,924
未払費用	574,417	499,373
未払法人税等	715,148	664,993
賞与引当金	378,967	367,865
短期解約違約金損失引当金	146,058	-
その他	1,198,941	1,145,839
流動負債合計	13,806,948	12,611,411
固定負債		
退職給付に係る負債	7,099	6,959
資産除去債務	560,340	588,914
その他	221,139	76,329
固定負債合計	788,578	672,202
負債合計	14,595,527	13,283,614
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,148,322	1,148,322
資本剰余金	1,872,489	1,872,489
利益剰余金	26,331,424	27,907,312
自己株式	611,515	611,656
株主資本合計	28,740,720	30,316,468
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	30,578	24,340
その他の包括利益累計額合計	30,578	24,340
純資産合計	28,771,299	30,340,809
負債純資産合計	43,366,826	43,624,423

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)	当連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)
売上高	107,281,892	102,778,658
売上原価	81,798,061	79,142,760
売上総利益	25,483,830	23,635,897
販売費及び一般管理費	¹ 20,806,107	¹ 20,101,311
営業利益	4,677,723	3,534,586
営業外収益		
受取利息	735	1,529
店舗出店等支援金収入	18,053	16,479
助成金収入	11,964	6,013
投資事業組合運用益	-	44,767
物品売却益	33,782	10,529
その他	15,870	9,620
営業外収益合計	80,407	88,939
営業外費用		
支払利息	1,657	23
貸倒引当金繰入額	98,721	31,365
投資事業組合運用損	3,278	-
その他	8,237	3,727
営業外費用合計	111,895	35,116
経常利益	4,646,235	3,588,409
特別利益		
固定資産売却益	² 29,612	² 30,199
投資有価証券売却益	-	146,539
受取補償金	146,707	374,392
受取保険金	6,755	-
特別利益合計	183,075	551,131
特別損失		
減損損失	³ 99,226	³ 283,729
投資有価証券評価損	9,999	1,618
店舗等撤退費用	44,124	65,605
会員権評価損	2,204	1,800
特別損失合計	155,554	352,753
税金等調整前当期純利益	4,673,756	3,786,787
法人税、住民税及び事業税	1,494,191	1,317,312
法人税等調整額	97,850	52,420
法人税等合計	1,396,341	1,264,892
当期純利益	3,277,414	2,521,894
親会社株主に帰属する当期純利益	3,277,414	2,521,894

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)	当連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)
当期純利益	3,277,414	2,521,894
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	32,509	6,238
その他の包括利益合計	1 32,509	1 6,238
包括利益	3,244,904	2,515,656
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	3,244,904	2,515,656

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 2021年1月1日 至 2021年12月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,148,322	1,872,489	24,189,217	611,515	26,598,513
当期変動額					
剰余金の配当			1,135,207		1,135,207
親会社株主に帰属する 当期純利益			3,277,414		3,277,414
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					-
当期変動額合計	-	-	2,142,206	-	2,142,206
当期末残高	1,148,322	1,872,489	26,331,424	611,515	28,740,720

	その他の包括利益累計額		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	その他の包括 利益累計額合 計	
当期首残高	63,088	63,088	26,661,602
当期変動額			
剰余金の配当			1,135,207
親会社株主に帰属する 当期純利益			3,277,414
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	32,509	32,509	32,509
当期変動額合計	32,509	32,509	2,109,697
当期末残高	30,578	30,578	28,771,299

当連結会計年度（自 2022年1月1日 至 2022年12月31日）

（単位：千円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	1,148,322	1,872,489	26,331,424	611,515	28,740,720
当期変動額					
剰余金の配当			946,006		946,006
親会社株主に帰属する 当期純利益			2,521,894		2,521,894
自己株式の取得				140	140
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）					-
当期変動額合計	-	-	1,575,888	140	1,575,747
当期末残高	1,148,322	1,872,489	27,907,312	611,656	30,316,468

	その他の包括利益累計額		純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	その他の包括 利益累計額合計	
当期首残高	30,578	30,578	28,771,299
当期変動額			
剰余金の配当			946,006
親会社株主に帰属する 当期純利益			2,521,894
自己株式の取得			140
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	6,238	6,238	6,238
当期変動額合計	6,238	6,238	1,569,509
当期末残高	24,340	24,340	30,340,809

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)	当連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	4,673,756	3,786,787
減価償却費	343,712	315,790
のれん償却額	142,312	160,272
減損損失	99,226	283,729
貸倒引当金の増減額(は減少)	98,721	31,365
賞与引当金の増減額(は減少)	10,488	11,102
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	159	140
受取利息及び受取配当金	735	1,529
支払利息	1,657	23
助成金収入	11,964	6,013
投資有価証券売却損益(は益)	-	146,539
受取補償金	146,707	374,392
受取保険金	6,755	-
投資有価証券評価損益(は益)	9,999	1,618
売上債権の増減額(は増加)	506,393	255,465
棚卸資産の増減額(は増加)	582,434	1,880,777
仕入債務の増減額(は減少)	106,583	925,007
未払金の増減額(は減少)	77,539	113,830
未払消費税等の増減額(は減少)	82,496	229,254
その他	143,525	312,805
小計	5,547,656	1,061,322
利息及び配当金の受取額	630	627
利息の支払額	1,082	23
助成金の受取額	11,964	5,363
補償金の受取額	146,707	370,550
保険金の受取額	6,755	-
法人税等の支払額	2,039,188	1,364,493
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,673,444	73,346
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	411,931	231,402
無形固定資産の取得による支出	2,797	5,388
投資有価証券の取得による支出	110,000	-
投資有価証券の売却による収入	-	146,539
敷金の差入による支出	304,721	176,879
敷金の回収による収入	160,462	271,520
貸付けによる支出	205,000	258,123
貸付金の回収による収入	64,552	694,185
事業譲受による支出	² 472,143	² 333,132
その他	31,490	64,773
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,250,089	172,091
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	14,802	14,802
長期借入金の返済による支出	5,014,802	-
自己株式の取得による支出	-	140
配当金の支払額	1,134,686	945,438
財務活動によるキャッシュ・フロー	6,134,686	960,381
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	3,711,331	714,943
現金及び現金同等物の期首残高	22,042,949	18,331,617
現金及び現金同等物の期末残高	¹ 18,331,617	¹ 17,616,674

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 . 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の状況

連結子会社の数 1社
連結子会社の名称 株式会社ベルパークネクスト

(2) 主要な非連結子会社の名称等

主要な非連結子会社
株式会社ベルブライド
株式会社ワクティブ

(連結の範囲から除いた理由)

非連結子会社は、小規模であり、総資産、売上高、当期純損益及び利益剰余金等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

2 . 持分法の適用に関する事項

(1) 持分法を適用した非連結子会社数

該当事項はありません。

(2) 持分法を適用しない非連結子会社の名称等

株式会社ベルブライド
株式会社ワクティブ

(持分法を適用していない理由)

持分法を適用していない非連結子会社は、小規模であり、当期純損益（持分に見合う額）及び利益剰余金（持分に見合う額）等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないためであります。

3 . 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社の決算日は、連結決算日と一致しております。

4 . 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの.....時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

市場価格のない株式等.....移動平均法による原価法

なお、投資事業有限責任組合及びそれに類する組合への出資（金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの）については、組合契約に規定される決算報告日に応じて、入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

棚卸資産

商 品.....月次総平均法による原価法

(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産

当社グループは定率法によっております。

なお、建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物	2年～34年
機械及び装置	16年～17年
車両運搬具	2年～6年
工具、器具及び備品	2年～20年

無形固定資産

自社利用のソフトウェア……社内における見込利用可能期間（5年）に基づく定額法によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員の賞与支給に備えるため、賞与支給見込額のうち当連結会計年度に負担すべき額を計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

当社グループが加入している複数事業主制度の企業年金基金制度では、自社の拠出に対応する年金資産の金額を合理的に算定できないことから、確定拠出制度と同様の会計処理を実施しております。

なお、連結子会社は、退職給付に係る期末自己都合要支給額を退職給付債務とする簡便法を適用しております。

(5) 重要な収益及び費用の計上基準

当社グループは、情報通信機器販売サービス事業を営む単一セグメントであり、主に顧客に対し情報通信機器等の販売、並びに通信サービスの契約取次を行っております。

主な取引における収益の認識時点は次のとおりであります。

情報通信機器等の販売

情報通信機器等の販売については、顧客に商品を引き渡した時点で履行義務が充足されると判断し、収益を認識しております。

なお、当社グループが代理人に該当すると判断した取引については、他の当事者が提供する商品と交換に受け取る額から当該他の当事者に支払う額を控除した純額を収益として認識しております。

また、商品の販売時に顧客へのサービス等の還元が、取引価格を算定するうえで実質的な値引となるものについては、収益から減額した純額を認識しております。

通信サービスの契約取次

通信サービスの契約の取次については、代理店契約に基づく役務の提供が完了した時点で履行義務が充足されると判断し、収益を認識しております。

(6) のれんの償却方法及び償却期間

投資の効果が発現する期間を見積り、2年から5年で均等償却する方法によって償却しております。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

連結キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(重要な会計上の見積り)

前連結会計年度(自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)

店舗に係る固定資産の減損損失の認識の要否

(1) 当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額

当連結会計年度の連結貸借対照表において、「固定資産の減損に係る会計基準」の対象資産となる店舗に係る固定資産2,556,152千円(有形固定資産2,050,279千円、無形固定資産422,768千円、その他83,104千円)を計上しております。

また、当連結会計年度において認識した減損損失は99,226千円であり、すべて店舗に係る固定資産に対するものであります。

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額の算出方法

当社グループは、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として継続的に収支の把握を行っている管理会計上の区分に基づきグルーピングしております。

各店舗の営業損益が継続してマイナスとなった場合、店舗閉店等の意思決定をした場合、あるいは営業損益が取得時計画を著しく下回った場合等に減損の兆候があるものとして、当該資産グループから得られる割引前将来キャッシュ・フローの総額と帳簿価額を比較することにより、減損損失の認識の要否の判定を行っております。

判定の結果、減損損失の認識が必要とされた場合には、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として認識しております。

当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額の算出に用いた主要な仮定

将来キャッシュ・フローの見積りは、店舗ごとの事業計画を基礎としており、当該事業計画には、各店舗の携帯電話端末等の販売台数の見込みや、通信事業者等からの手数料収入の見込み等が含まれております。

翌連結会計年度の連結財務諸表に与える影響

将来キャッシュ・フローの見積りには不確実性を伴い、前提とした条件や仮定に変更が生じた場合には減損損失を認識することになる可能性があります。

当連結会計年度(自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)

店舗に係る固定資産の減損損失の認識の要否

(1) 当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額

当連結会計年度の連結貸借対照表において、「固定資産の減損に係る会計基準」の対象資産となる店舗に係る固定資産2,307,227千円(有形固定資産2,049,808千円、無形固定資産186,963千円、その他70,455千円)を計上しております。

また、当連結会計年度において認識した減損損失は283,729千円であり、すべて店舗に係る固定資産に対するものであります。

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額の算出方法

当社グループは、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として継続的に収支の把握を行っている管理会計上の区分に基づきグルーピングしております。

各店舗の営業損益が継続してマイナスとなった場合、店舗閉店等の意思決定をした場合、あるいは営業損益が取得時計画を著しく下回った場合等に減損の兆候があるものとして、当該資産グループから得られる割引前将来キャッシュ・フローの総額と帳簿価額を比較することにより、減損損失の認識の要否の判定を行っております。

判定の結果、減損損失の認識が必要とされた場合には、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失として認識しております。

当連結会計年度の連結財務諸表に計上した金額の算出に用いた主要な仮定

将来キャッシュ・フローの見積りは、店舗ごとの事業計画を基礎としており、当該事業計画には、各店舗の携帯電話端末等の販売台数の見込みや、通信事業者等からの手数料収入の見込み等が含まれております。

翌連結会計年度の連結財務諸表に与える影響

将来キャッシュ・フローの見積りには不確実性を伴い、前提とした条件や仮定に変更が生じた場合には減損損失を認識することになる可能性があります。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当連結会計年度の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

これによる主な変更点は、携帯電話等端末販売時に係る顧客へのサービス等の還元を、取引価格を算定する上での実質的な値引と判断したため、売上高から減額する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当連結会計年度の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当連結会計年度の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しておりますが、当該期首残高に与える影響はありません。

この結果、当連結会計年度の売上高は2,302百万円減少し、売上原価は184百万円減少し、販売費及び一般管理費は2,118百万円減少しましたが、営業利益、経常利益及び税金等調整前当期純利益に与える影響はありません。

収益認識会計基準等を適用したため、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動負債」に表示していた「短期解約違約金損失引当金」は、当連結会計年度より「返金負債」として「流動負債」の「その他」に含めて表示することとしております。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

なお、収益認識会計基準第89-3項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度に係る「収益認識関係」注記については記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当連結会計年度の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。なお、連結財務諸表に与える影響はありません。

また、「金融商品関係」注記において、金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項等の注記を行うこととしました。ただし、「金融商品の時価等の開示に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第19号 2019年7月4日)第7-4項に定める経過的な取扱いに従って、当該注記のうち前連結会計年度に係るものについては記載しておりません。

(未適用の会計基準等)

該当事項はありません。

(表示方法の変更)

(連結損益計算書)

1. 前連結会計年度において「営業外収益」に区分掲記しておりました「受取賃貸料」は、重要性が乏しくなったため、当連結会計年度において「営業外収益」の「その他」に含めて表示することといたしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外収益」の「受取賃貸料」に表示していた589千円は、「その他」として組み替えております。

2. 前連結会計年度において「営業外費用」に区分掲記しておりました「賃貸費用」は、重要性が乏しくなったため、当連結会計年度において「営業外費用」の「その他」に含めて表示することといたしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、「営業外費用」の「賃貸費用」に表示していた352千円は、「その他」として組み替えております。

(連結貸借対照表関係)

1 当社グループにおいては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行2行と当座貸越契約を締結しております。これらの契約に基づく借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当連結会計年度 (2022年12月31日)
当座貸越極度額の総額	5,000,000千円	5,000,000千円
借入実行残高	-	-
差引額	5,000,000	5,000,000

2 売掛金のうち顧客との契約から生じた債権の金額は、連結財務諸表「注記事項(収益認識関係)3.(1)契約資産及び契約負債の残高等」に記載しております。

3 非連結子会社及び関連会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当連結会計年度 (2022年12月31日)
投資有価証券(株式)	0千円	0千円

4 敷金

一部の賃借物件の敷金について、当社、貸主及び金融機関との間で預託委託契約を締結しております。当該契約に基づき、金融機関は貸主に対し敷金相当額を当社に代わって預託しております。

	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当連結会計年度 (2022年12月31日)
	14,802千円	-千円

(連結損益計算書関係)

1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)	当連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)
広告宣伝費	59,513千円	50,371千円
販売促進費	1,747,624	1,363,258
給料	7,421,070	7,075,234
雑給	152,780	155,556
法定福利費	1,459,244	1,380,096
賞与	1,407,783	1,029,080
賞与引当金繰入額	378,967	367,865
退職給付費用	247,637	260,674
地代家賃	2,915,250	2,952,406
減価償却費	343,712	315,790

2 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)	当連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)
店舗設備等	29,612千円	30,199千円

3 減損損失

当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

前連結会計年度(自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)

(単位:千円)

用途	種類	場所	減損損失
店舗	建物及び構築物等	東京都 6店舗	12,630
	建物及び構築物等	神奈川県 2店舗	11,259
	建物及び構築物等	千葉県 5店舗	8,594
	建物及び構築物等	栃木県 1店舗	10,129
	建物及び構築物等	愛知県 2店舗	7,595
	のれん	岐阜県 1店舗	4,842
	建物及び構築物、のれん等	大阪府 1店舗	6,654
	建物及び構築物等	広島県 1店舗	14,128
	建物及び構築物等	福岡県 1店舗	7,387
	建物及び構築物、のれん等	佐賀県 1店舗	16,003
合計			99,226

当社グループは、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として継続的に収支の把握を行っている管理会計上の区分に基づきグルーピングしております。

各資産グループの営業損益が継続してマイナスとなった場合、店舗閉店等の意思決定をした場合、あるいは営業損益が取得時計画を著しく下回った場合等に減損の兆候があるものとして、当該資産グループから得られる割引前将来キャッシュ・フローの総額と帳簿価額を比較することにより、減損損失の認識の要否の判定を行っております。

判定の結果、当連結会計年度において減損損失の認識が必要とされた資産グループについては、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(99,226千円)として特別損失に計上しております。

当連結会計年度(自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)

(単位:千円)

用途	種類	場所	減損損失
店舗	建物及び構築物等	東京都 10店舗	44,322
	建物及び構築物等	神奈川県 1店舗	866
	建物及び構築物等	千葉県 3店舗	8,076
	建物及び構築物、のれん等	埼玉県 4店舗	33,101
	建物及び構築物等	群馬県 1店舗	13,533
	建物及び構築物、のれん等	愛知県 5店舗	105,319
	建物及び構築物等	三重県 2店舗	9,428
	建物及び構築物等	岐阜県 1店舗	1,797
	建物及び構築物等	大阪府 3店舗	6,925
	建物及び構築物等	福井県 1店舗	2,032
	建物及び構築物、のれん等	香川県 1店舗	20,371
	建物及び構築物、のれん等	徳島県 1店舗	11,632
	建物及び構築物、のれん等	愛媛県 1店舗	13,298
	建物及び構築物等	広島県 1店舗	11,186
建物及び構築物等	福岡県 1店舗	1,837	
合計			283,729

当社グループは、キャッシュ・フローを生み出す最小単位として継続的に収支の把握を行っている管理会計上の区分に基づきグルーピングしております。

各資産グループの営業損益が継続してマイナスとなった場合、店舗閉店等の意思決定をした場合、あるいは営業損益が取得時計画を著しく下回った場合等に減損の兆候があるものとして、当該資産グループから得られる割引前将来キャッシュ・フローの総額と帳簿価額を比較することにより、減損損失の認識の要否の判定を行っております。

判定の結果、当連結会計年度において減損損失の認識が必要とされた資産グループについては、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(283,729千円)として特別損失に計上しております。

(連結包括利益計算書関係)

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)	当連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	46,857千円	4,951千円
組替調整額	-	4,039
税効果調整前	46,857	8,991
税効果額	14,347	2,753
その他有価証券評価差額金	32,509	6,238
その他の包括利益合計	32,509	6,238

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数(株)	当連結会計年度 増加株式数(株)	当連結会計年度 減少株式数(株)	当連結会計年度 末株式数(株)
発行済株式				
普通株式	6,732,600	-	-	6,732,600
合計	6,732,600	-	-	6,732,600
自己株式				
普通株式	318,997	-	-	318,997
合計	318,997	-	-	318,997

(注) 当社は、2022年1月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っておりますが、上記は当該株式分割前の株式数で記載しております。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2021年3月24日 定時株主総会	普通株式	699,082	109	2020年12月31日	2021年3月25日
2021年8月5日 取締役会	普通株式	436,125	68	2021年6月30日	2021年9月10日

(注) 当社は、2022年1月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っておりますが、上記は当該株式分割前の配当額で記載しております。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	配当の原資	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
2022年3月24日 定時株主総会	普通株式	551,569	利益剰余金	86	2021年12月31日	2022年3月25日

(注) 当社は、2022年1月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っておりますが、上記は当該株式分割前の配当額で記載しております。

当連結会計年度（自 2022年1月1日 至 2022年12月31日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数（株）	当連結会計年度 増加株式数（株）	当連結会計年度 減少株式数（株）	当連結会計年度 末株式数（株）
発行済株式				
普通株式 （注）1、2	6,732,600	13,465,200	-	20,197,800
合計	6,732,600	13,465,200	-	20,197,800
自己株式				
普通株式 （注）1、3	318,997	638,063	-	957,060
合計	318,997	638,063	-	957,060

（注）1. 当社は、2022年1月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。

2. 発行済株式の普通株式数の増加13,465,200株は、株式分割によるものです。

3. 自己株式の普通株式数の増加638,063株は、株式分割による増加637,994株、単元未満株式の買取による増加69株であります。

2. 新株予約権及び自己新株予約権に関する事項

該当事項はありません。

3. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 （千円）	1株当たり配当額 （円）	基準日	効力発生日
2022年3月24日 定時株主総会	普通株式	551,569	86.00	2021年12月31日	2022年3月25日
2022年8月4日 取締役会	普通株式	394,436	20.50	2022年6月30日	2022年9月9日

（注）当社は、2022年1月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っておりますが、上記の2022年3月24日定時株主総会決議の配当については当該株式分割前の配当額で記載しております。

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 （千円）	配当の原資	1株当たり配当額 （円）	基準日	効力発生日
2023年3月23日 定時株主総会	普通株式	394,435	利益剰余金	20.50	2022年12月31日	2023年3月24日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)	当連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)
現金及び預金勘定	18,331,617千円	17,616,674千円
預入期間が3か月を超える定期預金	-	-
現金及び現金同等物	18,331,617	17,616,674

2 事業の譲受けにより増加した資産及び負債の主な内訳

前連結会計年度(自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)

流動資産	108,310 千円
固定資産	363,833
資産合計	472,143

当連結会計年度(自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)

流動資産	113,906 千円
固定資産	219,226
資産合計	333,132

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、短期的な運転資金は銀行借入により調達し、デリバティブ取引は行わない方針であります。余剰資金は安全性の高い金融資産で運用しております。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金及び未収入金は、当該取引先の信用リスクに晒されております。

投資有価証券は、上場株式、非上場株式及び投資事業有限責任組合への出資であり、市場価格の変動リスク及び発行体の信用リスクに晒されております。

長期貸付金は、主に関係会社に対するものであり、貸付先の信用リスクに晒されております。

敷金は、店舗及び事務所の賃借に伴う敷金であり、これらは預託先の信用リスクに晒されております。

営業債務である買掛金及び未払金は、そのほとんどが2か月以内の支払期日であり、これらは流動性リスクに晒されております。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

市場リスク(為替や金利等の変動リスク)の管理

為替及び金利の変動リスクについては、常時モニタリングしており、リスクの軽減に努めております。

上場株式については、定期的に時価や発行体の財務状況を把握し、保有状況を継続的に見直しております。

信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

営業債権、長期貸付金及び敷金については、主要な取引先及び貸付先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに決済期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

非上場株式及び投資事業有限責任組合への出資については、定期的に発行体の財務状況を把握し、保有状況を継続的に見直しております。

資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

月次で資金繰計画を作成することにより、流動性リスクを管理しております。また、機動的に資金を調達するため、取引銀行との間で当座貸越契約を締結しております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

(5) 信用リスクの集中

当連結会計年度の決算日現在における営業債権のうち84.0%が特定の大口取引先に対するものであります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。
前連結会計年度（2021年12月31日）

（単位：千円）

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
投資有価証券	42,448	42,448	-
長期貸付金	641,745	642,604	858
敷金	2,232,339	2,216,980	15,359
資産計	2,916,533	2,902,032	14,500

（注）1. 「現金及び預金」「売掛金」「未収入金」「買掛金」「未払金」「未払法人税等」については、現金であること、及び短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

（単位：千円）

区分	前連結会計年度 (2021年12月31日)
非上場株式	11,618
投資事業有限責任組合への出資	126,403

上記については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「投資有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度において、非上場株式について9,999千円の減損処理を行っております。

3. 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

（単位：千円）

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
現金及び預金	18,331,617	-	-	-
売掛金	11,126,450	-	-	-
未収入金	172,576	-	-	-
長期貸付金	-	591,358	43,798	6,588
敷金	198,262	1,597,688	376,152	60,236
合計	29,828,907	2,189,046	419,951	66,824

4. 長期借入金及びその他有利子負債の連結決算日後の返済予定額

該当事項はありません。

当連結会計年度（2022年12月31日）

（単位：千円）

	連結貸借対照表 計上額	時価	差額
投資有価証券	34,286	34,286	-
長期貸付金	300,716	299,545	1,170
敷金	2,154,468	2,061,153	93,315
資産計	2,489,471	2,394,985	94,486

（注）1. 「現金及び預金」「売掛金」「未収入金」「買掛金」「未払金」「未払法人税等」については、現金であること、及び短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

2. 市場価格のない株式等

（単位：千円）

区分	当連結会計年度 (2022年12月31日)
非上場株式	10,000
投資事業有限責任組合への出資	113,985

上記については、「投資有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度において、非上場株式について1,618千円の減損処理を行っております。

3. 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

(単位：千円)

	1年以内	1年超5年以内	5年超10年以内	10年超
現金及び預金	17,616,674	-	-	-
売掛金	10,902,060	-	-	-
未収入金	132,336	-	-	-
長期貸付金	-	255,631	38,539	6,545
敷金	-	1,726,841	354,791	72,836
合計	28,651,070	1,982,472	393,331	79,381

4. 長期借入金及びその他有利子負債の連結決算日後の返済予定額

該当事項はありません。

3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価：

観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価：

観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価：

観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品

当連結会計年度(2022年12月31日)

(単位：千円)

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
投資有価証券				
株式	34,286	-	-	34,286
資産計	34,286	-	-	34,286

(2) 時価で連結貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品
当連結会計年度(2022年12月31日)

(単位:千円)

区分	時価			
	レベル1	レベル2	レベル3	合計
長期貸付金	-	299,545	-	299,545
敷金	-	2,061,153	-	2,061,153
資産計	-	2,360,698	-	2,360,698

(注) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

投資有価証券

上場株式を保有しており、上場株式は相場価格を用いて評価しております。上場株式は活発な市場で取引されているため、その時価をレベル1の時価に分類しております。

長期貸付金

長期貸付金の時価については、その将来キャッシュ・フローを国債の利回り等適切な指標に信用スプレッドを上乗せした利率で割り引いた現在価値により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

敷金

敷金の時価については、償還予定時期を見積り、国債の利回り等適切な指標による利率で割り引いた現在価値により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

(有価証券関係)

1. その他有価証券

前連結会計年度(2021年12月31日)

(単位:千円)

	種類	連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	42,448	0	42,448

(注) 非上場株式等(連結貸借対照表計上額138,022千円)については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

当連結会計年度(2022年12月31日)

(単位:千円)

	種類	連結貸借対照表計上額	取得原価	差額
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	株式	34,286	0	34,286

(注) 非上場株式等(連結貸借対照表計上額123,985千円)については、市場価格のない株式等のため、上表の「その他有価証券」には含めておりません。

2. 売却したその他有価証券

前連結会計年度(2021年12月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(2022年12月31日)

(単位:千円)

種類	売却額	売却益の合計額	売却損の合計額
株式	4,073	4,039	-

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社グループは、複数事業主制度の企業年金基金制度を採用しております。なお、当社グループが加入している複数事業主制度の企業年金基金制度では、自社の拠出に対応する年金資産の金額を合理的に算定できないことから、確定拠出制度と同様の会計処理を実施しております。

また、連結子会社は、退職一時金制度を有しており、給与と勤務期間に基づいた一時金を支給しております。当該一時金制度については簡便法により、退職給付に係る負債及び退職給付費用を計算しております。

2. 確定給付制度

(1) 簡便法を適用した制度の、退職給付に係る負債の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)	当連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)
退職給付に係る負債の期首残高	7,258千円	7,099千円
退職給付の支払額	159	140
退職給付に係る負債の期末残高	7,099	6,959

(2) 退職給付債務及び年金資産の期末残高と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債及び退職給付に係る資産の調整表

	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当連結会計年度 (2022年12月31日)
非積立型制度の退職給付債務	7,099千円	6,959千円
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	7,099	6,959
退職給付に係る負債	7,099	6,959
連結貸借対照表に計上された負債と資産の純額	7,099	6,959

(注) 簡便法を適用した制度によるものであります。

3. 複数事業主制度

確定拠出制度と同様に会計処理する複数事業主制度の企業年金制度への要拠出額は、前連結会計年度247,637千円、当連結会計年度260,674千円であります。

(1) 複数事業主制度の直近の積立状況

	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当連結会計年度 (2022年12月31日)
年金資産の額	70,549,060千円	86,274,225千円
年金財政計算上の数理債務の額	67,778,447	82,330,991
差引額	2,770,613	3,943,234

(2) 複数事業主制度の掛金に占める当社グループの割合

前連結会計年度 1.5% (自2021年1月1日 至2021年12月31日)

当連結会計年度 1.4% (自2022年1月1日 至2022年12月31日)

(3) 補足説明

上記(1)及び(2)につきましては、連結財務諸表作成時において入手可能な直近時点の数値に基づいております。なお、上記(2)の割合は当社グループの実際の負担割合とは一致しません。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当連結会計年度 (2022年12月31日)
繰延税金資産		
一括償却資産	13,298千円	20,164千円
未払事業税	56,231	46,746
商品評価損損金不算入額	7,398	8,284
賞与引当金損金不算入額	116,912	113,494
短期解約違約損失引当金損金不算入額	44,722	-
退職給付に係る負債	2,456	2,407
長期未払金(役員退職慰労引当金)損金不算入額	7,836	7,836
会員権評価損損金不算入額	23,905	24,456
減損損失損金不算入額	71,214	114,685
資産除去債務	172,329	181,001
未払費用否認額	17,390	17,195
投資有価証券評価損	35,602	33,043
貸倒引当金	30,228	39,832
前受収益益金加算	36,627	-
契約負債	-	44,488
その他	66,595	106,393
小計	702,750	760,032
評価性引当額	-	-
計	702,750	760,032
繰延税金負債		
資産除去債務に対する資産	85,495	87,604
計	85,495	87,604
繰延税金資産の純額	617,254	672,427

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (2021年12月31日)	当連結会計年度 (2022年12月31日)
法定実効税率	法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。	30.6%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目		0.6
住民税均等割		2.3
その他		0.1
税効果会計適用後の法人税等の負担率		33.4

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

資産除去債務のうち連結貸借対照表に計上しているもの

1. 当該資産除去債務の概要

店舗等の不動産賃貸借契約及び定期借地権契約に伴う原状回復義務等であります。

2. 当該資産除去債務の金額の算定方法

使用見込期間を当該契約の期間及び建物の耐用年数等に応じて3年～34年と見積り、割引率は0.00%～1.99%を使用して資産除去債務の金額を計算しております。

3. 当該資産除去債務の総額の増減

	前連結会計年度 (自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)	当連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)
期首残高	523,128千円	560,340千円
有形固定資産の取得に伴う増加額	84,400	79,530
時の経過による調整額	3,552	3,273
資産除去債務の履行による減少額	50,740	54,229
期末残高	560,340	588,914

(収益認識関係)

1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当社グループは、情報通信機器販売サービス事業を営む単一セグメントであり、顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、次のとおりであります。

	当連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)
商品売上高	61,684,566千円
受取手数料	41,094,092
顧客との契約から生じる収益	102,778,658
その他の収益	-
外部顧客への売上	102,778,658

2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

収益を理解するための基礎となる情報は、「(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項) 4. 会計方針に関する事項 (5) 重要な収益及び費用の計上基準」に記載のとおりです。

3. 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当連結会計年度末において存在する顧客との契約から翌連結会計年度以降に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

(1) 契約資産及び契約負債の残高等

(単位：千円)

	当連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)
顧客との契約から生じた債権	
期首残高	11,126,450
期末残高	10,902,060
契約負債	
期首残高	315,882
期末残高	234,063

(注) 「顧客との契約から生じた債権」は、連結貸借対照表の「売掛金」の残高に含まれ、「契約負債」は「流動負債」の「その他」の残高に含まれます。

当連結会計年度において認識した収益のうち、期首の契約負債残高に含まれていたものは、145,455千円
であります。

(2) 残存履行義務に配分した取引価格

当社グループにおいては、当初の予想契約期間が1年を超える重要な取引がないため、実務上の簡便法を
適用し、残存履行義務に関する情報の記載を省略しています。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前連結会計年度(自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)

当社グループは、情報通信機器販売サービス事業の単一セグメントであるため、記載を省略してありま
す。

当連結会計年度(自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)

当社グループは、情報通信機器販売サービス事業の単一セグメントであるため、記載を省略してありま
す。

【関連情報】

前連結会計年度(自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

当社グループは、単一の製品及びサービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の
90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

当社グループは、本邦以外の外部顧客への売上高はないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

当社グループは、本邦以外に所有している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

顧客の名称	売上高	関連するセグメント名
ソフトバンク株式会社	34,472,388千円	情報通信機器販売サービス事業

当連結会計年度(自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

当社グループは、単一の製品及びサービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の
90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

当社グループは、本邦以外の外部顧客への売上高はないため、該当事項はありません。

(2) 有形固定資産

当社グループは、本邦以外に所有している有形固定資産がないため、該当事項はありません。

3. 主要な顧客ごとの情報

顧客の名称	売上高	関連するセグメント名
ソフトバンク株式会社	37,667,991千円	情報通信機器販売サービス事業

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度（自 2021年1月1日 至 2021年12月31日）

当社グループは、情報通信機器販売サービス事業の単一セグメントであるため、記載を省略しておりません。

当連結会計年度（自 2022年1月1日 至 2022年12月31日）

当社グループは、情報通信機器販売サービス事業の単一セグメントであるため、記載を省略しておりません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度（自 2021年1月1日 至 2021年12月31日）

当社グループは、情報通信機器販売サービス事業の単一セグメントであるため、記載を省略しておりません。

当連結会計年度（自 2022年1月1日 至 2022年12月31日）

当社グループは、情報通信機器販売サービス事業の単一セグメントであるため、記載を省略しておりません。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

前連結会計年度（自 2021年1月1日 至 2021年12月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 2022年1月1日 至 2022年12月31日）

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度（自 2021年1月1日 至 2021年12月31日）

関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

1. 連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

属性	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容	議決権等の所有 (被所有)割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
子会社	㈱ビーラボ	東京都千代田区	10,000	電気通信機器の企画及び販売事業	(所有) 直接 100	資金の援助	資金の貸付(注1)	200,000	その他流動資産 長期貸付金	100,000 350,000
子会社	㈱ワクティブ	東京都中央区	10,000	有料職業紹介事業	(所有) 直接 100	資金の援助 役員の兼任	資金の貸付(注1)	-	長期貸付金 (注2)	200,000

2. 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等

種類	会社等の名称 又は氏名	議決権等の所有 (被所有)割合	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
役員	山川 隆久	なし	当社社外監査役	弁護士報酬 (注3)	18,500	-	-

(注) 1. 資金の貸付については、市場金利を勘案し決定しております。

2. 当該子会社への長期貸付金に対し、当連結会計年度において98,721千円の貸倒引当金繰入額を計上しており、当連結会計年度末現在、引当金残高は98,721千円であります。

3. 顧問契約を締結し顧問料を支払っているほか、個別の案件毎に契約しております。取引価格及び条件につきましては、一般の取引条件及び契約内容等を勘案し、交渉のうえ決定しております。

当連結会計年度（自 2022年1月1日 至 2022年12月31日）

関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

1. 連結財務諸表提出会社の非連結子会社及び関連会社等

属性	会社等の名称	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
子会社	(株)ビーラボ (注5)	東京都千代田区	10,000	電気通信機器の企画及び販売事業	(所有) 直接 100	資金の援助	資金の貸付(注1) 貸付金の回収	200,000 650,000	-	-
子会社	(株)ワクティブ	東京都中央区	10,000	有料職業紹介事業	(所有) 直接 100	資金の援助 役員の兼任	資金の貸付(注1)	-	長期貸付金 (注2)	200,000

2. 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主（個人の場合に限る。）等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等の所有 (被所有) 割合(%)	関連当事者との関係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
役員	山川 隆久	-	-	-	なし	当社社外監査役	弁護士報酬 (注3)	12,902	-	-
役員及びその近親者が議決権の過半数を自己の計算において所有している会社	(株)日本ビジネス開発 (注4)	東京都世田谷区	10,000	有価証券の保有及び運用、フィットネススクラブの経営	(被所有) 直接 27.06	役員の兼任	投資有価証券の売却 (注5)	146,000	-	-

(注) 1. 資金の貸付については、市場金利を勘案し決定しております。

2. 当該子会社への長期貸付金に対し、当連結会計年度において31,365千円の貸倒引当金繰入額を計上しており、当連結会計年度末現在、引当金残高は130,087千円であります。

3. 顧問契約を締結し顧問料を支払っているほか、個別の案件毎に契約しております。取引価格及び条件につきましては、一般の取引条件及び契約内容等を勘案し、交渉のうえ決定しております。

4. 当社取締役西川健士氏は、株式会社日本ビジネス開発の代表取締役を兼任しており、当社代表取締役西川猛氏が同社の株式の100%を保有しております。

5. 当社は2022年11月1日付で当社の子会社（株式会社ビーラボ）の発行済株式の全てを株式会社日本ビジネス開発に譲渡しております。なお、株式の譲渡価格につきましては、西川猛氏及び西川健士氏を除く取締役が選定した独立した第三者評価機関による株価算定の結果を踏まえ、両社協議の上、合理的に決定しております。また、当該譲渡に伴い株式会社ビーラボは、当社の子会社ではなくなり、「役員及びその近親者が議決権の過半数を自己の計算において所有している会社の子会社」に該当することとなりました。なお、当連結会計年度における連結損益計算書において、投資有価証券売却益142,499千円が特別利益に計上されております。

(1株当たり情報)

	前連結会計年度 (自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)	当連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)
1株当たり純資産額	1,495.33円	1,576.90円
1株当たり当期純利益	170.34円	131.07円

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 当社は、2022年1月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、1株当たり純資産額及び1株当たり当期純利益を算定しております。

3. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)	当連結会計年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)
1株当たり当期純利益		
親会社株主に帰属する当期純利益 (千円)	3,277,414	2,521,894
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	3,277,414	2,521,894
期中平均株式数(株)	19,240,809	19,240,799

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

該当事項はありません。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	14,802	-	1.87	-
合計	14,802	-	-	-

(注) 平均利率については、借入金の加重平均利率を記載しております。

【資産除去債務明細表】

明細表に記載すべき事項が連結財務諸表規則第15条の23に規定する注記事項として記載されているため、記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(千円)	29,360,922	51,836,662	76,128,711	102,778,658
税金等調整前四半期(当期) 純利益(千円)	1,655,945	2,637,963	3,339,374	3,786,787
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益(千円)	1,126,182	1,778,460	2,240,063	2,521,894
1株当たり四半期(当期)純 利益(円)	58.53	92.43	116.42	131.07

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益 (円)	58.53	33.90	23.99	14.65

2【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年12月31日)	当事業年度 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	16,681,364	16,030,699
売掛金	¹ 10,863,370	10,657,219
商品	6,689,224	8,501,045
貯蔵品	129,687	240,858
前払費用	311,472	328,062
未収入金	¹ 190,688	¹ 151,649
その他	¹ 109,954	15,345
流動資産合計	34,975,763	35,924,880
固定資産		
有形固定資産		
建物	1,736,023	1,764,397
構築物	84,550	99,528
機械及び装置	-	30,194
車両運搬具	0	1,875
工具、器具及び備品	179,438	118,225
有形固定資産合計	2,000,012	2,014,221
無形固定資産		
のれん	436,410	188,608
ソフトウェア	87,610	60,422
その他	5,344	5,341
無形固定資産合計	529,365	254,372
投資その他の資産		
投資有価証券	180,470	158,272
関係会社株式	844,824	844,824
長期貸付金	80,023	90,645
関係会社長期貸付金	550,000	200,000
敷金	² 2,129,967	2,039,371
会員権	51,795	53,995
長期前払費用	108,415	86,281
繰延税金資産	591,634	640,279
その他	1,639	1,645
貸倒引当金	98,721	130,087
投資その他の資産合計	4,440,048	3,985,228
固定資産合計	6,969,426	6,253,822
資産合計	41,945,190	42,178,703

(単位：千円)

	前事業年度 (2021年12月31日)	当事業年度 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	9,728,693	18,838,093
短期借入金	14,802	-
未払金	816,164	1,881,439
未払費用	547,597	475,127
未払法人税等	707,238	656,931
未払消費税等	313,185	95,558
預り金	660,452	608,139
賞与引当金	357,030	346,404
短期解約違約金損失引当金	146,058	-
その他	181,346	403,331
流動負債合計	13,472,568	12,305,025
固定負債		
資産除去債務	541,415	571,942
その他	217,573	76,329
固定負債合計	758,989	648,271
負債合計	14,231,557	12,953,297
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,148,322	1,148,322
資本剰余金		
資本準備金	1,602,729	1,602,729
その他資本剰余金	269,759	269,759
資本剰余金合計	1,872,489	1,872,489
利益剰余金		
利益準備金	8,078	8,078
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	25,265,678	26,783,830
利益剰余金合計	25,273,756	26,791,909
自己株式	611,515	611,656
株主資本合計	27,683,053	29,201,065
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	30,578	24,340
評価・換算差額等合計	30,578	24,340
純資産合計	27,713,632	29,225,405
負債純資産合計	41,945,190	42,178,703

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)	当事業年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)
売上高		
商品売上高	67,389,700	60,186,892
受取手数料	36,728,175	39,684,090
売上高合計	104,117,876	99,870,982
売上原価		
商品売上原価	75,048,547	72,522,528
支払手数料	4,900,746	4,826,880
売上原価合計	79,949,294	77,349,409
売上総利益	24,168,581	22,521,573
販売費及び一般管理費	2 19,735,274	2 19,143,488
営業利益	4,433,307	3,378,085
営業外収益		
受取利息	1 735	1 1,529
受取賃貸料	1 5,164	1 5,223
店舗出店等支援金収入	18,053	15,776
関係会社業務受託収入	1 42,141	1 41,083
助成金収入	11,804	5,829
投資事業組合運用益	-	44,767
物品売却益	1 33,782	1 10,529
その他	1 14,422	1 8,966
営業外収益合計	126,104	133,704
営業外費用		
支払利息	1,657	23
賃貸費用	4,928	4,575
貸倒引当金繰入額	98,721	31,365
投資事業組合運用損	3,278	-
その他	7,702	2,988
営業外費用合計	116,289	38,953
経常利益	4,443,122	3,472,836
特別利益		
固定資産売却益	3 29,612	3 30,199
投資有価証券売却益	-	4,039
受取補償金	146,707	374,392
受取保険金	6,755	-
関係会社株式売却益	-	142,499
特別利益合計	183,075	551,131
特別損失		
減損損失	99,226	279,385
投資有価証券評価損	-	1,618
店舗等撤退費用	44,124	46,216
会員権評価損	1,804	1,800
関係会社株式評価損	9,999	-
特別損失合計	155,154	329,020
税引前当期純利益	4,471,043	3,694,947
法人税、住民税及び事業税	1,438,309	1,276,681
法人税等調整額	114,006	45,891
法人税等合計	1,324,302	1,230,789
当期純利益	3,146,741	2,464,158

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2021年1月1日 至 2021年12月31日）

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他 利益剰余金 繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計
当期首残高	1,148,322	1,602,729	269,759	1,872,489	8,078	23,254,145	23,262,223
当期変動額							
剰余金の配当						1,135,207	1,135,207
当期純利益						3,146,741	3,146,741
株主資本以外の項目の当期 変動額（純額）							
当期変動額合計	-	-	-	-	-	2,011,533	2,011,533
当期末残高	1,148,322	1,602,729	269,759	1,872,489	8,078	25,265,678	25,273,756

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証 券評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	611,515	25,671,519	63,088	63,088	25,734,608
当期変動額					
剰余金の配当		1,135,207			1,135,207
当期純利益		3,146,741			3,146,741
株主資本以外の項目の当期 変動額（純額）		-	32,509	32,509	32,509
当期変動額合計	-	2,011,533	32,509	32,509	1,979,023
当期末残高	611,515	27,683,053	30,578	30,578	27,713,632

当事業年度（自 2022年1月1日 至 2022年12月31日）

(単位：千円)

	株主資本						
	資本金	資本剰余金			利益剰余金		
		資本準備金	その他 資本剰余金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他 利益剰余金 繰越利益 剰余金	利益剰余金 合計
当期首残高	1,148,322	1,602,729	269,759	1,872,489	8,078	25,265,678	25,273,756
当期変動額							
剰余金の配当						946,006	946,006
当期純利益						2,464,158	2,464,158
自己株式の取得							
株主資本以外の項目の当期 変動額（純額）							
当期変動額合計	-	-	-	-	-	1,518,152	1,518,152
当期末残高	1,148,322	1,602,729	269,759	1,872,489	8,078	26,783,830	26,791,909

	株主資本		評価・換算差額等		純資産合計
	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計	
当期首残高	611,515	27,683,053	30,578	30,578	27,713,632
当期変動額					
剰余金の配当		946,006			946,006
当期純利益		2,464,158			2,464,158
自己株式の取得	140	140			140
株主資本以外の項目の当期 変動額（純額）		-	6,238	6,238	6,238
当期変動額合計	140	1,518,011	6,238	6,238	1,511,773
当期末残高	611,656	29,201,065	24,340	24,340	29,225,405

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券

子会社株式.....移動平均法による原価法

その他有価証券

市場価格のない株式等以外のもの.....時価法

(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

市場価格のない株式等.....移動平均法による原価法

なお、投資事業有限責任組合及びそれに類する組合への出資(金融商品取引法第2条第2項により有価証券とみなされるもの)については、組合契約に規定される決算報告日に応じて、入手可能な最近の決算書を基礎とし、持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

(2) 棚卸資産

商品.....月次総平均法による原価法

(貸借対照表価額は収益性の低下による簿価切下げの方法により算定)

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産

定率法によっております。

なお、建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以後に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。主な耐用年数は次のとおりであります。

建物	2年～34年
構築物	2年～20年
機械及び装置	16年～17年
車両運搬具	2年～6年
工具、器具及び備品	2年～20年

(2) 無形固定資産

自社利用のソフトウェア.....社内における見込利用可能期間(5年)に基づく定額法によっております。

のれん.....投資の効果が発現する期間を見積り、2年から5年で均等償却する方法で償却しております。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒による損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員の賞与支給に備えるため、賞与支給見込額のうち当事業年度に負担すべき額を計上しております。

4. 収益及び費用の計上基準

当社は、情報通信機器販売サービス事業を営む単一セグメントであり、主に顧客に対し情報通信機器等の販売、並びに通信サービスの契約取次を行っております。

主な取引における収益の認識時点は次のとおりであります。

(1) 情報通信機器等の販売

情報通信機器等の販売については、顧客に商品を引き渡した時点で履行義務が充足されると判断し、収益を認識しております。

なお、当社が代理人に該当すると判断した取引については、他の当事者が提供する商品と交換に受け取る額から当該他の当事者に支払う額を控除した純額を収益として認識しております。

また、商品の販売時に顧客へのサービス等の還元が、取引価格を算定するうえで実質的な値引となるものについては、収益から減額した純額を認識しております。

(2) 通信サービスの契約取次

通信サービスの契約の取次については、代理店契約に基づく役務の提供が完了した時点で履行義務が充足されると判断し、収益を認識しております。

5. その他財務諸表作成のための基本となる事項

退職給付に係る会計処理の方法

当社が加入している複数事業主制度の企業年金基金制度では、自社の拠出に対応する年金資産の金額を合理的に算定できないことから、確定拠出制度と同様の会計処理を実施しております。

(重要な会計上の見積り)

前事業年度(自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)

店舗に係る固定資産の減損損失の認識の要否

(1) 当事業年度の財務諸表に計上した金額

当事業年度の貸借対照表において、「固定資産の減損に係る会計基準」の対象資産となる店舗に係る固定資産2,455,941千円(有形固定資産1,950,427千円、無形固定資産422,768千円、その他82,745千円)を計上しております。

また、当事業年度において認識した減損損失は99,226千円であり、すべて店舗に係る固定資産に対するものであります。

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

連結財務諸表「注記事項(重要な会計上の見積り)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

当事業年度(自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)

店舗に係る固定資産の減損損失の認識の要否

(1) 当事業年度の財務諸表に計上した金額

当事業年度の貸借対照表において、「固定資産の減損に係る会計基準」の対象資産となる店舗に係る固定資産2,198,596千円(有形固定資産1,943,672千円、無形固定資産186,963千円、その他67,960千円)を計上しております。

また、当事業年度において認識した減損損失は279,385千円であり、すべて店舗に係る固定資産に対するものであります。

(2) 識別した項目に係る重要な会計上の見積りの内容に関する情報

連結財務諸表「注記事項(重要な会計上の見積り)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当事業年度の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。

これによる主な変更点は、携帯電話等端末販売時に係る顧客へのサービス等の還元を、取引価格を算定する上での実質的な値引と判断したため、売上高から減額する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当事業年度の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当事業年度の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しておりますが、当該期首残高に与える影響はありません。

この結果、当事業年度の売上高は2,228百万円減少し、売上原価は174百万円減少し、販売費及び一般管理費は2,054百万円減少しましたが、営業利益、経常利益及び税引前当期純利益に与える影響はありません。

収益認識会計基準等を適用したため、前事業年度の貸借対照表において、「流動負債」に表示していた「短期解約違約金損失引当金」は、当事業年度より「返金負債」として「流動負債」の「その他」に含めて表示することとしております。なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前事業年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。

なお、収益認識会計基準第89-3項に定める経過的な取扱いに従って、前事業年度に係る「収益認識関係」注記については記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を当事業年度の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することといたしました。なお、財務諸表に与える影響はありません。

(表示方法の変更)

該当事項はありません。

(貸借対照表関係)

1 関係会社に対する金銭債権(区分表示されたものを除く)

	前事業年度 (2021年12月31日)	当事業年度 (2022年12月31日)
短期金銭債権	136,581千円	27,729千円
短期金銭債務	-	4,721

2 敷金

一部の賃借物件の敷金について、当社、貸主及び金融機関との間で預託委託契約を締結しております。
当該契約に基づき、金融機関は貸主に対し敷金相当額を当社に代わって預託しております。

	前事業年度 (2021年12月31日)	当事業年度 (2022年12月31日)
	14,802千円	-千円

3 保証債務

前事業年度(2021年12月31日)

子会社の株式会社ベルプライドの一部の店舗において、事業用賃貸借契約に関する連帯保証をしております。

当事業年度(2022年12月31日)

該当事項はありません。

(損益計算書関係)

1 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)	当事業年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)
営業取引以外の取引による取引高	50,509千円	50,236千円

2 販売費に属する費用のおおよその割合は前事業年度9%、当事業年度7%、一般管理費に属する費用のおおよその割合は前事業年度91%、当事業年度93%であります。

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)	当事業年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)
広告宣伝費	55,317千円	46,778千円
販売促進費	1,632,213	1,289,838
給料	7,015,602	6,696,889
雑給	131,883	130,945
法定福利費	1,378,868	1,305,927
賞与	1,323,517	968,538
賞与引当金繰入額	357,030	346,404
退職給付費用	237,462	253,414
地代家賃	2,814,847	2,850,543
減価償却費	333,827	307,116

3 固定資産売却益の内訳は次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2021年1月1日 至 2021年12月31日)	当事業年度 (自 2022年1月1日 至 2022年12月31日)
店舗設備等	29,612千円	30,199千円

(有価証券関係)

子会社株式は、市場価格がないため、時価を記載しておりません。

なお、市場価格のない子会社株式の貸借対照表計上額は次のとおりであります。

(単位：千円)

区分	前事業年度末 (2021年12月31日)	当事業年度末 (2022年12月31日)
子会社株式	844,824	844,824

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2021年12月31日)	当事業年度 (2022年12月31日)
繰延税金資産		
一括償却資産	12,625千円	19,690千円
未払事業税	55,608	46,125
商品評価損損金不算入額	4,307	4,468
賞与引当金損金不算入額	109,322	106,069
短期解約違約金損失引当金損金不算入額	44,722	-
長期未払金(役員退職慰労金)損金不算入額	7,836	7,836
会員権評価損損金不算入額	23,559	24,110
減損損失損金不算入額	71,227	114,617
資産除去債務	165,781	175,128
未払費用否認額	16,320	16,138
投資有価証券評価損損金不算入額	26,415	26,918
貸倒引当金	30,228	39,832
前受収益益金加算	36,627	-
契約負債	-	44,488
その他	70,598	100,367
繰延税金資産合計	675,183	725,793
繰延税金負債		
資産除去債務に対応する資産	83,548	85,514
繰延税金負債合計	83,548	85,514
繰延税金資産の純額	591,634	640,279

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (2021年12月31日)	当事業年度 (2022年12月31日)
法定実効税率	法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。	30.6%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目		0.6
住民税均等割		2.3
その他		0.2
税効果会計適用後の法人税等の負担率		33.3

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報は、連結財務諸表「注記事項(収益認識関係)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：千円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形固定資産	建物	1,736,023	364,015	141,770 (131,810)	193,871	1,764,397	1,150,653
	構築物	84,550	25,576	1,714 (1,666)	8,883	99,528	43,290
	機械及び装置	-	30,960	-	765	30,194	765
	車両運搬具	0	2,677	-	801	1,875	17,521
	工具、器具及び備品	179,438	27,514	16,500 (16,058)	72,227	118,225	375,668
	計	2,000,012	450,743	159,984 (149,535)	276,549	2,014,221	1,587,899
無形固定資産	のれん	436,410	35,222	122,751 (122,301)	160,272	188,608	-
	ソフトウェア	87,610	3,378	-	30,567	60,422	-
	その他	5,344	-	2	-	5,341	-
	計	529,365	38,601	122,754 (122,301)	190,840	254,372	-

(注) 1. 建物、構築物、機械及び装置、工具、器具及び備品の当期増加額は、主に店舗等の開設、移転並びに改修に伴う設備の取得等によるものであります。

2. 建物、構築物、工具、器具及び備品、のれんの当期減少額は、店舗の減損処理等によるものであります。

3. 「当期減少額」欄の()内は内書きで、減損損失の計上額であります。

【引当金明細表】

(単位：千円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	98,721	130,087	98,721	130,087
賞与引当金	357,030	346,404	357,030	346,404

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	1月1日から12月31日まで
定時株主総会	3月中
基準日	12月31日
剰余金の配当の基準日	6月30日 12月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
取次所	-
買取手数料	無料
公告掲載方法	当社の公告は電子公告により行う。ただし、電子公告によることができない事故その他やむをえない事由が生じたときは、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL https://www.pronexus.co.jp/koukoku/9441/9441.html
株主に対する特典	<p>1. 毎年6月末日及び12月末日現在の株主名簿に記載又は記録された、100株(1単元)以上保有の株主様に対し、一律で以下の株主優待を贈呈いたします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クオカード1,000円分 ・ベルプライド株主優待券1枚() <p>()当社子会社(株式会社ベルプライド)が運営する「結婚相談所ベルプライド」の入会時にかかる初期費用(入会金・登録料)の無料券となります。</p> <p>2. 当社の創立30周年を記念して、2022年6月末日及び12月末日現在の株主名簿に記載又は記録された、100株(1単元)以上保有の株主様に対し、一律で以下の記念株主優待を贈呈いたしました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クオカード2,000円分() <p>()2022年6月末日及び12月末日を基準日として贈呈するクオカードは、通常株主優待のクオカード1,000円分と記念株主優待のクオカード2,000円分を合計した3,000円分の券面額となります。</p>

(注) 当社定款の定めにより、当社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができません。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- (3) 募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利

第7【提出会社の参考情報】

1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書

事業年度(第29期)(自 2021年1月1日 至 2021年12月31日) 2022年3月24日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書及びその添付書類

2022年3月24日関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書及び確認書

第30期第1四半期(自 2022年1月1日 至 2022年3月31日) 2022年5月12日関東財務局長に提出

第30期第2四半期(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日) 2022年8月4日関東財務局長に提出

第30期第3四半期(自 2022年7月1日 至 2022年9月30日) 2022年11月7日関東財務局長に提出

(4) 臨時報告書

2022年3月29日関東財務局長に提出

金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2(株主総会における議決権行使の結果)に基づく臨時報告書であります。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2023年 3月23日

株式会社ベルパーク

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 小 出 健 治
業 務 執 行 社 員

指定有限責任社員 公認会計士 成 島 徹
業 務 執 行 社 員

<財務諸表監査>

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ベルパークの2022年1月1日から2022年12月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ベルパーク及び連結子会社の2022年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「連結財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当連結会計年度の連結財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、連結財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

店舗に係る固定資産の減損損失の認識の要否の判定に関する判断の妥当性	
監査上の主要な検討事項の内容及び決定理由	監査上の対応
<p>連結財務諸表の注記事項「(重要な会計上の見積り)店舗に係る固定資産の減損損失の認識の要否」に記載されているとおり、店舗に係る固定資産2,307,227千円が計上されており、総資産の5.3%を占めている。また、会社は当連結会計年度において、店舗に係る固定資産の減損損失283,729千円を計上している。</p> <p>会社は店舗資産については、店舗単位で資産のグルーピングを行っており、各店舗の営業損益が継続してマイナスとなった場合、店舗閉店等の意思決定をした場合、あるいは営業利益が取得時計画を著しく下回った場合等に減損の兆候があるものとして、資産グループから得られる割引前将来キャッシュ・フローの総額と帳簿価額を比較することによって、減損損失の認識の要否の判定を行っている。判定の結果、減損損失の認識が必要と判定された場合、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、帳簿価額の減少額は減損損失として認識される。</p> <p>一部の店舗では、営業利益が取得時計画を著しく下回っていることから減損の兆候が認められ、減損損失の認識の要否の判定が行われている。認識の要否の判定における割引前将来キャッシュ・フローの見積りは、店舗ごとの事業計画を基礎として見積られているが、当該事業計画には、各店舗の携帯電話端末等の販売台数、通信キャリア等からの手数料収入の予測に関する不確実性を伴う仮定が使用されている。これらに係る経営者による判断が将来キャッシュ・フローの見積りに重要な影響を及ぼす。</p> <p>以上から、当監査法人は、店舗に係る固定資産の減損損失の認識の要否の判定に関する判断の妥当性が、当連結会計年度の連結財務諸表監査において特に重要であり、「監査上の主要な検討事項」に該当すると判断した。</p>	<p>当監査法人は、店舗に係る固定資産の減損損失の認識の要否の判定に関する判断の妥当性を評価するため、主に以下の手続を実施した。</p> <p>(1)内部統制の評価 固定資産の減損損失の認識の要否の判定に関連する内部統制の整備及び運用状況の有効性を評価した。 評価に当たっては、特に割引前将来キャッシュ・フローの基礎となる事業計画が適切な社内の承認プロセスを経て策定されていることに焦点を当てた。</p> <p>(2)割引前将来キャッシュ・フローの見積りの合理性を評価するための手続 見積りに用いられた主要な仮定である携帯電話端末等の販売台数及び通信キャリア等からの手数料収入の予測の根拠について、経営者に質問したほか、主に以下の手続を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過年度に減損の兆候が識別された店舗のうち、減損損失が認識されなかった店舗の営業利益計画と実績値の比較により、割引前将来キャッシュ・フローの見積りの精度について評価した。 ・割引前将来キャッシュ・フローについて、取締役会にて承認された事業計画との整合性を確認した。 ・事業計画の策定に際して主要な仮定となった各店舗の携帯電話端末等の販売台数及び通信キャリア等からの手数料収入の予測について、関連資料の閲覧、過去実績からの趨勢分析を実施することでその合理性を検討した。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の連結財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

連結財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と連結財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうかを検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

連結財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての連結財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、連結財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・連結財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として連結財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、連結財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。
- ・連結財務諸表に対する意見を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、連結財務諸表の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会と協議した事項のうち、当連結会計年度の連結財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

< 内部統制監査 >

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、株式会社ベルパークの2022年12月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

当監査法人は、株式会社ベルパークが2022年12月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準における当監査法人の責任は、「内部統制監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

内部統制報告書に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告に係る内部統制の整備及び運用状況を監視、検証することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

内部統制監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した内部統制監査に基づいて、内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、内部統制監査報告書において独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための監査手続を実施する。内部統制監査の監査手続は、監査人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。
- ・財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討する。
- ・内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果に関する十分かつ適切な監査証拠を入手する。監査人は、内部統制報告書の監査に関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査意見に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した内部統制監査の範囲とその実施時期、内部統制監査の実施結果、識別した内部統制の開示すべき重要な不備、その是正結果、及び内部統制の監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記の監査報告書の原本は有価証券報告書提出会社が別途保管しております。

2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。

独立監査人の監査報告書

2023年 3月23日

株式会社ベルパーク

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 小 出 健 治
業 務 執 行 社 員

指定有限責任社員 公認会計士 成 島 徹
業 務 執 行 社 員

監査意見

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている株式会社ベルパークの2022年1月1日から2022年12月31日までの第30期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、株式会社ベルパークの2022年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査上の主要な検討事項

監査上の主要な検討事項とは、当事業年度の財務諸表の監査において、監査人が職業的専門家として特に重要であると判断した事項である。監査上の主要な検討事項は、財務諸表全体に対する監査の実施過程及び監査意見の形成において対応した事項であり、当監査法人は、当該事項に対して個別に意見を表明するものではない。

(店舗に係る固定資産の減損損失の認識の要否の判定に関する判断の妥当性)

個別財務諸表の監査報告書に記載すべき監査上の主要な検討事項「店舗に係る固定資産の減損損失の認識の要否の判定に関する判断の妥当性」は、連結財務諸表の監査報告書に記載されている監査上の主要な検討事項「店舗に係る固定資産の減損損失の認識の要否の判定に関する判断の妥当性」と実質的に同一の内容である。このため、個別財務諸表の監査報告書では、これに関する記載を省略する。

その他の記載内容

その他の記載内容は、有価証券報告書に含まれる情報のうち、連結財務諸表及び財務諸表並びにこれらの監査報告書以外の情報である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査役及び監査役会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の財務諸表に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

財務諸表監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と財務諸表又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

財務諸表監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・経営者が継続企業を前提として財務諸表を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業的前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業的前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表の注記事項が適切でない場合は、財務諸表に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表の表示、構成及び内容、並びに財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会と協議した事項のうち、当事業年度の財務諸表の監査で特に重要であると判断した事項を監査上の主要な検討事項と決定し、監査報告書において記載する。ただし、法令等により当該事項の公表が禁止されている場合や、極めて限定的ではあるが、監査報告書において報告することにより生じる不利益が公共の利益を上回ると合理的に見込まれるため、監査人が報告すべきでないと判断した場合は、当該事項を記載しない。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記の監査報告書の原本は有価証券報告書提出会社が別途保管しております。
2. X B R L データは監査の対象には含まれていません。